WASON
HQ
1104
J74+

Jan. 1900
no. 504

明治三十三年一月二十五日

女學雜誌

第五百四號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第五百四號目次

◎社說
嗚呼此日、故若松先生が[illegible]
若松先生が見たる最後の日
若松先生の臨終……[illegible]女史談話

◎女學
女學校一教師の述懷……
方今女學校第一等の要如何……

◎聞書
[illegible]越後君(市川團十郎書)……青柳[illegible]

◎亞米利加だより
米國通信(第四)……信[illegible]村

◎評論
日本社會と故若松[illegible]氏……
[illegible]……黑光女史

◎文藝
[illegible]山水……山下石翁

◎雜錄
社外[illegible]の微音……
[illegible]の公開……[illegible]山人
大[illegible]……大坂女子[illegible]
[illegible]……大塚[illegible]女

◎隨想
心の得するわけ[illegible]……[illegible]
[illegible]

◎時事
[illegible]ムーディー氏通信……和田[illegible]
[illegible]外交輸入……[illegible]

◎片々

◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即はち十日、二十五日の兩日を以て發行す
十日發行の分は稍や平易實際の記事を專らにし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事柄を主として、其他、文藝、史傳、學藝等の者を[illegible]に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する者[illegible]の卓見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。
單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみを指定して所望せらるるものあらば其の[illegible]に應ずべし

●女學雜誌定價表●

一冊定價	金拾錢(郵稅共)
半年分前金	金壹圓
一年分前金	金貳圓

前金

代金は郵便爲替にて[illegible]送金あるべし
[illegible]
但し[illegible]
[illegible]
[illegible]

廣告料

一行(廿二字詰)一回		前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

[illegible]

明治三十[illegible]年[illegible]月[illegible]日印刷
明治三十[illegible]年[illegible]月[illegible]日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　[illegible]川[illegible]
東京府[illegible]
發行所　女學雜誌社
東京市[illegible]
印刷所　[illegible]

田口卯吉序
[illegible]序　ガルスト　單稅太郎遺著
根本正君跋
小川[illegible]花　川井[illegible]吉　青柳有美　校定

單稅經濟學　全

(刊既)

定價金[illegible]拾錢　郵稅共著者肖像小傳入

如今、孰くの國家にも、孰れの社會にも、前途に橫はる憂ふべき大問題あり。社會問題は即ちこれ。故に[illegible]以て[illegible]之に對する[illegible]一にして足らず。而も著者は[illegible]、其[illegible]な世に公にするの必要を認む。本書は[illegible]の學說を[illegible]し、[illegible]、[illegible]單稅、自由[illegible]等の[illegible]等を以て、來るべき大問題を解釋せんとするものなり。
著者ガルスト氏、日本にあること十六年、日夜之が爲めに憂慮し、遂に一命を獻げて逝く。その晩年に及んで血を嘔く[illegible]著はす所の即ち「單稅經濟學」の一篇也。今や[illegible]日に[illegible]し、[illegible]なる[illegible]を加へ、公刊して以て江湖に頒たんとす。願くは[illegible]著者が平素以て日本邦家のために[illegible]たるの精神に[illegible]られんことを

東京京橋區[illegible]門町

發行元　經濟雜誌社
取次所　女學雜誌社

女學雜誌

第五百四號

明治三十三年
一月廿五日發兌

社説

一周忌日、勝海舟先生を憶ふ

故人復た見るべからず、音容再たび接すべからず、但だ同月同日ゆくりなく廻り來りて、恨思鮮やかに復活す。顧りみて當年當日の事を思へば、肝、粟然として寒むし。たゞ胸の血涙に熱するを覺ゆ。

一月十九日。汝は、世の爲に呪はるべく、偉人の爲に悦こばるべき日となれり。爾の日に於て、世は絶大なる損失を蒙むりたり。一世の泰斗、一代の英豪、汝と同もに世より隱れたり。日の未だ西山に沒せざる頃ろ、汝が光明の稍や傾むき初めし時、辰三點鐘半を報ずる時刻に於て、世は慟哭するの尚ほ堪へざるべき大損害を受けたり。然し乍ら、逆境五十年、日夜忡々として寸時の悠容もなかりし偉人の手と足とは、玆に初めて安息して平らかに啓き、終生の競爭場を走り盡し、一代の激戰を潔ぎよく了えて、而して安然として其の眠りの床に入れり。汝は偉人の爲めには滿足せらるべき好運時となれり。

茫々たる武藏野の草は、最と多かりしならん、然れど余は万瓦朝日に映ずる舊江戸城の繁盛を見て、獨り家康を憶ふ。斯の如く、維新の元勳、明治の功臣、林の如く、雲の如く多くあるにも拘はらず、余は獨り近代に於て唯二人を見る。西鄕南洲先生、勝海舟先生、これ而已。

十九世紀の後半五十年、帝國は此の二人を産出せしをもて誇るに足れり。余が輩、たまく此の機に生れ來て、會ひ難き人と時代を同ふし乍ら、何等の不運ぞや、遂に其の一人には謁するを得ざりき。余が口、南洲先生の名を呼べば、直ちに熱情迸ばしる。肥大の御姿、巨圓の御眼、漆黑の眉、隆準

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の鼻、乾然として且つ慈愛滴たる濃厚深嚴の口、ありくと目前に現じ、筑紫潟の波の月、城山のこがらしの音さへ身に徹して、未だ曾て閑忘せず。之を敬し、之を重んずるとは勿論言はず、之を慕ひ之を念ふ、念々絶えず。形骸倘は止まざる也。而して、余は遂に此の温たかき偉大の人傑に近づくと能はざりし也。

但、夫れ、海舟先生に於ては、遺憾の情やゝ薄きを得たり。而も、何んぞ遺憾なきを得んや。初めて先生の門に到りしより、其の最後に及ぶ迄、十又五年、蓋し短かしと云ふべからず。左れど、一回は一回より厚く、一回は一回より切に、之を望みて彌よ高く、之れを念ふて益す深く、遂に傾倒悦服して、心中寸隙なし。曾ては惟ゑらく、吾が學園を辭し、吾が教兒を托し、獨り暫らく先生の門に坐して、終夜終日學ぶ所あらんと。先生笑つて可さず。然りと雖ども、余もし先生の世を去る斯の如く迅速なりと知らば、假令如何なる障害ありとも、其の膝下よりは離れざりしなり。余は、先生の英氣年ごとに挽回するを視、就中、三十年に入りて、彌よ豪氣潑烈、抱負絶大なるを觀、飜つて世局益々艱難なるを知つて、天の決して此人を殺さゞるとを想ひたり。明治三十年七八月に於ける先生手記の日記にこれあり、云く、維新の大業半ばに廢し、既に末路に就く、人心萎靡、世事殆んど窮す、而して一代與とに人なきが如し、余老來意氣益す盛んなり、たゞ一片の精神を獻せざらんやと。余も亦た斯くあらんと信じたりしなり。而して、「補薔酒」「下劑」「下劑頓止」「腦卒中」の四句の能く示すに足る簡短なる生理上の變化は、忽然として此の偉人を世より奪ひ、氣息三寸の間に絶え、脈動頓に止めば、既に現代に海舟先生は失せしなり。嗚呼、余が推後學の遺憾豈に言ふに忍びんや。

先生一去して、巨木抜けたり。余は大厦の維持に莫大の影響あらんとを期したり。但だ、先生世に在るの日、無名大功の秘義に長じ、事々に機先を制して、衆の知らざる間に大事を決了せられしかば、先生長逝の後ち、先生なきの損失を容易に發見し得べくもあらず。左れど、其影響は次第に高く、其反應は叙々に現はれ、後遂に先生無きの不幸を歎ずると、宛から今にして衆の南洲先生を念ふの比となるべし。否な、此事を覺り得るは、必らずしも左程長年月の後にはあらじ。今

もし精妙に觀じ得る人あらば、既に歴々として其の證跡を發見すると難きにあらじ。

世上、勝先生を以て大久保彦左衛門に比したるものありき。單に此赳々たる武夫を擧て、複雜偉大なる海舟先生に比するは、猶ほ張飛を以て孔明に比するが如し。然れども、大久保氏が、剛直忠烈にして、將軍の威嚴に屈せず、幕府の大事にして衆の能く言はざる時、百難千謗万危を犯すも尚直諫し、毫も怖れざりし態度と、其將軍に對する關係とに至りては、稍や、海舟先生の或る行爲に似たり。故に此の一事を以て相比する時は、明かに先生の忠膽を世俗に示すの効力あらん。幕府代々の人傑に勤王心の嚴然たりしとは、存外なる事實なり。海舟先生の如き、殊に其の赤誠を視る。而も、先生の勤王心は、西國人の採つて以て利用したる名義上の勤王にあらず。一種守舊頑迷の徒の只一概に主張する不靈の頑說にもあらず。民衆に慈愛を垂れ、蒼生に天福を降し、苟くも國土を忘れざるを以て天の命となし、補弼王佐よく斯の如くするを即わち勤王の主旨とせられしなり。故に、北條氏の苦忠を忖度して、其の眞相を道破し、嘗ては、宮内省に於て、堂々其眞意を辯じ、以て自稱勤王家の肝膽を寒からしめたるとありき。惟ふに、一朝大事あるの日、もしくは姦臣、佞臣、媚臣、俗臣、天明を蒙らまし、禍機鬱積するの日、而して、衆の遙かに躊々して容易く言はざるの日、直ちに天闕に拜し、死を以て直言し、敢て決して去らざるの忠慨あるものに至ては、當代獨り先生を推せり。先生世に在りて、未だ容易に此の事をせざりき、而も、何時如何なる場合に於て、卒然起つて闕下に伏するとあらんかを知可ざりし其の態度は、如何に一部の人をして寒心せしめつゝありし乎。先生瞑目して、初めて安堵せしもの幾何ぞ。勳位あり、功名あるものに於て特に尤も多かりしならん。左れど、安意は人世の毒なり。先生世にあつて、激氣、慨意、つねに鬱勃し、矢弦上にあり放れず、口、烈語あり未だ言わず、而して、彈正となり、雄鎮となり、敵國となり、包める爆烈彈となりて、一世を警しめたる、其功何人に存す。但だ先生ありて初めて能く此の大刺激を得たり。

先生長逝して、氷川の清話を聞かず。一種の神韻世より亡び、高調亦た響かず。之れよりして、世上何ぞ殺風景に、醜聞

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の横行、何んぞ自由なるや。大勲位伯爵先生の名望俄かに揚がり、士気頓に下落したり。

嗚呼、文筆の士、口舌の士、遊説の士、奔走の士、もしくは法制の人、憲法の人、勲爵の人、馬上の人、金鵄勲章の人はあり。されど、風雲一代の變に厳然として任じ、生死功名の外に卓立して、手腕あり大観ある底の偉人傑なき時代は、衆口囂々として只だ辯を競ふの時代なり。當代の患は、何ものにもあらず、只だ此種の人傑なき一事にあり。否な、此人なしと言わじ、只だ自から任ずるものなきと、一代の信任する所ろなきとにあり。一代の信ぜざる、倚ほ可なり、一人の任ぜざるに至ては、之を奈何んせんや。

余は、此に於りて愈よ海舟先生を追崇し、敬重の念禁ずると能はず、一歳速やかに廻り来り、端なく其の一周忌日に會ひ、爰に左の二篇を附録して些さか自から慰さむ。其の殆んど夢に類するが如きは、余が屢、此の偉人に對して殆んど兒孫の如くなるが故のみ。(卅三年一月十九日夜読録す。去年今月今日今夜、今正に氷川邸に走り、先生の室、先生横さまに臥眠せらるゝ傍らに通夜しつゝありしなり)。

四

海舟先生を見たる最後の日

明治三十二年一月十四日午後二時……三時、
先生小臥中(當夜筆記)

まだ、いけませんか。

どふも痛くつてネ、通じがとまつたら、又いけなくなり升たよ。

どふです、世間は騒々しいかネ、静かですか。△△はどふしてます。

余程世話しいよふです。先達ての書付は渡しました。二三度上つた相ですが、お留守だつた相デス。

ハア、そふだつけ。もふかるかネ、夫はイヽ。…………

○○はもふ帰りましたか。

西京です。とふ〳〵ミンナ辭職しました。

早くよす方がいゝよ、どふせいけないのだから…………

時に瀧村鶴雄氏来訪、挨拶あり。先生、某氏より送られし細書を示さる。金圓合力を乞ふの書なり。

一たん、瀧村氏の辭し返られしを呼び、前月上られし奏文の漢譯せられしを出し、其寫し方を依頼せらる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

奥（徳川氏奥の事）の方にたれか、漢文の上手なものが居ませうか。字を間違へないやうな。陳政も世話しいので、之で御面を蒙むりますと言つて、持つて來たものだから。どうか御面倒ですが、夫ヲヤア願ひます。

紙ハサミを引よせ、種々取調べられし中に、「康有爲來談の時の筆記」「田中宮内大臣に上る書の控」なども見へたり。

どふも、わたしのは、半紙にソンナに書く流義で、ベラ〳〵です。どふしても、いけない流義です。

又、藥カエ。房がうるさくつて藥斗りもつて來て。ホントニ悪るい人だよ。モウよすよ。

瀧村氏辭し去るの後、疲勞の躰、常に似ず、御苦しげに見へたれば、余も亦早く辭して歸らんとす。

夫では、先生、御用心なさいまし。

お歸りですか、甚はだ失敬しました。房ヤ、房ヤ、お歸りだよ。

（客の歸るを知らするは常の例なり。一人對話の時は、言語鄭重なると常の例なれど、此日は殊更に重々しげに感ぜしともありしが、此日こそ則はち會見の最後にてありし也。

海舟先生臨終の日

斷えず且つ最後迄、傍に侍りし糸子女史の談話による（卅二年一月記）

近頃は、私がリウマチで胸が痛むものですから「糸ヤ、チメーの代りをこさへなけりや、ならチーヨ」などと仰しやつて下すつて、中々御元氣でした。

去年などは、此の工合じヤア、己もまだなか〳〵死なれチーヨなど仰しやいました。

あの日は、お湯からお上りなすつて「大久保の歸るのは、昨日だか、今日だつけ」と仰しやつた丈けで、夫れから、ハヾカりからお出になつて、マウお床の方へ居らつしやらず、コノ所ろ（六疊の部屋にて、大抵いつも吾れ等の坐する邊）へ倒て居らつしやいますから、どふなすたのかと、びつくりしました。「死ぬかも知れないよ」と仰しやつて、そして「生薑湯を持つて來い」と仰しやいましたが、間に合ひませんから、ブランデーを持つて參りました。「油汗が出る」と仰しやいますので、お湯は其の時モウ落して仕舞ひましたから、あちらで取て參りましたら、夫でも一度お拭なすつたのです。夫で、

奥さまに申上まして、コチラにお出になり升た時には、もう何も仰しやらず。極靜かにお眠りでした。

元日の晩から、わるくおなりなすつたので、皆サンがお辭義に居らつしやるのが、「今日は來てくれねばいゝがナー」と仰しやいました。

お書き物は、去年中に皆ンナ片付ました。「今年はどうしてコンナにめつて來るか、己を死ぬるとでも思つてゐるのかシラ」と仰しやいましてチ。夫でも、大附お骨をお折り遊ばして、暮のうちにミンナ濟みました。

ふだんは余程御養生のいゝ方です、御膳は常から少くて、いつでも二膳でした。夏はサカナなどは少しもお上りになりませんでした。西洋料理はお好の方でした。

ハイ、前に、コレラにおなりの時は馬にのつてお歸りになりまして、お顔が眞青で、ひつくり致し升た。餘程おひどく御座いました。二度目のコレラの時は、三四日でしたが、ふだん夏はあまりお食りなさらぬのに、鳥を入れて茄子を油でいためたのをお上りになりましてからでした。「ミンナ來てはならん」と仰しやいましたが、私共は此八疊の所へ來て、俯をして居升た。「木の下へ持つて行てもらつて、土の上に寐ると善いのだが」と仰しやいました。

女學

女學校一教師の述懷

女子教育に經驗ある某氏來り訪ひて、得たる所、惑ふ所、疑ふ所など、くさ〲話しつゞけて、一夜を過せり。そが中にて、他の心付ともならんずらんと思はるゝ節々を書き留めさせ、下にかゝぐ。

◎女と云ふものは、善く視れば見ほど、いよ〲分りませぬ。氣を付て觀察せぬものなどには、迚も分る期はありますまい。

◎男子を教育して見たこともありますが、女子の教育とは餘程違ひます。心配の箇條が丸で別です。男子には、惰けはせぬか、放埒にはならぬか、女々しくはならぬかなどと心配したのですが、女生の爲にはソンナ心配が少しもない代りに、丸で思ひ付もしなかつた色々の事が非常に多く出來ました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎しろうと評の尤つとも多いのは、女子教育でせう。誰でも銘々說を立てゝ、勝手な注文をします。全たく、女は人によつて形造らるゝものであるかの如くに致します。探るにも足らぬ凡說ですが、夫が存外、俗うけをして、眞との女學熱心家の邪魔になります。

◎私の年來の經驗では、女の心に一ッ、守るべく、賴よるべく、重んずべく、自らなぐさむべき或る物を入れて、夫に依つて自立自主せしむる工夫をせねば、女性教育の根本は立たぬと信じます。取締り、躾、心得、用心などゝ云ふ外面から制裁するやうなもの丈けを以て教育しては、迚も醇厚强健なる發達は出來ず、つまり堅固な女德も出來ませぬ。ソノ或る物と云ふのは、必らずしも、神、佛、道、眞理などと云ふ名を附けませぬ、或る物と申すほど明らかに私の感情を十分に言現はし得るものがありませぬが、此の或る物を以心傳心的に傳へます。此のコッに觸れ、此の甲處にさわり、此の脈絡に連續すると、女性のすべての活動力が生き返るやうになつて、爽大なる發達を初めます。譬へば、春草の崩え上るやうな勢ひで。其の工合を見るほど愉快なことはありませぬ。

◎趣味を養なふと云ふことが、女學に至極大切でせうか、夫が仲々六かしいことで。先づ、審美的の批評を聞かせますと、餘程目が明いて、確かに趣味の才覺を開發しますが、稍ゝもすれば批評の弊に流れ升。批評の弊とは、只だ冷たい辨識力ばかり發達して、温たかな雅致の情操が出來ぬことです。此の弊が多くなると、喩へば倫理學に精はしくなつて行の左程にも無いのと同じことで、反つて趣味を害することになり升。

◎塾舍の取締と云ふことは、一大難事件となつて居るのですが、一つには、餘程子供らしくなつて居るものに見て扱かはねばなりませぬ。塾から其家庭に歸るか、又は餘所へ出ますと、存外なもので、直きに大人らしくなります。母親が、心配ばかりして居た娘が、外へ出て大層利悧らしく見へることのあるのと同じことです。

◎シカシ、何せよ、塾舍の訓練は中々一大事です。お互同士の間に慈愛の交はりを爲さしめることや、規律の習慣をつけることなどが、尤とも六かしいのです。

◎女學校で、英雄豪傑偉人大丈夫などの事を話して聞かせるのは詰らぬ、主として女の摸範になる女秀才の事ばかり話す

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

が善いなど、言ふ人も有升が、夫は僻論です。女の拒絶になる人物の事は、よし話さなくてもまだ自然に覺る場合がありませうが、男の優れたものはドンナものであるかの事實は、能く話して聞かせねば分りませぬ。ソシテ、女が斯る男子の事を知りますのは、良人を撰ぶのにも、之を助けるのにも、其男兒を教育するのにも至極大切なとです。

◎男が女の事を知りませぬが、女も亦たトント男を知らぬものです。男と云ふものは、女に比べれば、磊落な、無頓着な、怨を忘れ、小事を放るやうな所ろが多くありまして、夫は女が至極敬服する性質の一つでありますから、通常な男子の通常な性質を見ても、大膽、偉大な所ろがあるやうに誤解して、飛んだ買ひかぶりをするとがあるものです、女は自から、其の女々しい所ろを嫌つて居るものですから、此の女々しい所ろがなくて、潔よくて、キツイ所ろがあると、大膽、男子を善く思ひますが、世に斗らんや、コレ丈の性質は、普通の男子にしても、女よりは比較的餘計發達させて居ますから、別段抜け出たものとして重んずべき價値はないのです。

◯數學、科學などの素養は、殊に今の女性に少ないのですから、分けて涵養せねばならぬのですが、夫には其の趣味を持たせるとを第一とするので、趣味を持たせるのは、此等の學科に於ける「美」を味はせ、同時に實地の應用を窺がはせるのが、尤とも近徑のやうです。

◎女生は一體、正直で、心配性のものですから、少こし嚴しく取締れば、何事でも服從的態度を取りませう、夫は決して六かしいとでは無いのです。然し、ソレ丈け容易に外面に於て服從する代りには、其の反動は何處かにキツト破態して出るものですが、夫は一寸と目に見へません。それゆゑ。ソノ害と影響も知らずに居る教育者が多いのです。然し、之は宜しくありませぬ。コンナやり方でなく、彼等をして、寧ろ無神經、健忘性、にならせるほどコセ〳〵心配させずに於て、而して急所を衝き、精神を引率し、悅服娛樂して、學に、道に進ませるやうな工夫が、苦心の存する所です。表面に女生の樣姿を整はせる位のとは、何でもないとです。

◎西洋風、東洋風、折衷風、ナマイキ、活發、中庸などと云つて、方針の執りにくいとを慨歎する人が多くありますが、教育者は、ソンナとを氣にとめず、場合々々に於ける尤とも

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

善い遣り方を爲て行くより外はありませぬ、初めから、方針などと言つて、キメて置ますと、間違ひます。

◎男の卒業生の爲には、其の出仕勤務の途を周旋してやらねば成りませぬ。女の卒業生の爲には、其の緣談もしくは前途一層の修業方を相談してやらねばなりませぬ。教師がコンナ事迄をと言ふ人がありますが、夫は宜しくありませぬ　男の出仕勤務は亦た勝手に變へるヿも出來ますが、女の緣談などはソウは出來ませぬ。一生涯の大事ですから、十分に注意を與へねば成りませぬ。夫を仕ませぬと、佛像を造つて、眼を入れぬやうなヿになりまする。

◎今日、女子教育に任ずるものは、第一、俠氣が無ければ成りませぬ。讒謗、妨害、攻擊、不利益等に敵對し、勳爵士的の戰ひを爲るつもりでなくてはなりませぬ。そして、女の子を持つた親は詰らぬ、成人すれば人にやる斗りだと申しますが、夫は愚論ではありますが善く人の心の中を穿つた話しです。女子教育者の心持も少しは夫に似て居ます。夫ゆへ、初めから全たくの親ごゝろで、特に一種義俠の精神が盛んでなくては、久しく女子教育は出來ませぬ。

方今

女學第一等の事奈何

女學第一等の事、奈何ん。是れ、女學生の常に講究すべき所なるのみならず、女學先生の先づ講究すべき所なり。人間先づ何をか第一等の事となす。曰く、德を立つる是れ也。左らば、人間たらんとして學に從事せる書生輩の要務も既に明かならずや。先づ德を立てずんば、他に何をかすべき。然るに、方今、男學生の爲には、此の一大明白の事理大抵忘れられたるに係はらず、獨り女生の爲には殊勝にも此の事理明亮に識認せらる。凡そ、女學の爲に言ふもの、女の先づ其女德を立てざる可らずと云ふを常とす。感謝すべし、女學界は未だ懷疑頹落の流風に入らず、幸にして正流本來の面目を維持せり。女子の爲に『德』を言ふものは、天下皆な然り、豈に慶こばしからずや。

然りと雖ども、僥倖にして一利を得たるものは、別に一害の附隨するヿを忘るべからず。今の如く連りに只だ女德を言ふものは、他に存する別個の一大事理を等閑に附す。曰く、彼等は女生をして、眞理に樂しみ、智慧に慕ふの渴望心を啓發せ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

しむる要務を忘却せり。

今の女學に當るものの理想何んぞ簡短なるや。彼等は、詠歌、禮式、茶、花、作文の類をだに教へば、女學の要務了れりと思惟するなり。偶たま更に其以上を課するの必要を言ふものあるも、只だ單に學問の實用を示し、其の功利を掲げ、以て學を爲すの利益を諮るに過ぎず。所謂ゆる眞理夫自身、學夫自身、智慧夫自身の香ぐはしき芳味を感得せしめ、心魂悉皆して誠らず之に醉ふか如き消息に逹せしめんとはせず。此を以て、女生か思想力の鍵長久に開けず、單に眞理の外廓に徘徊し來して、強いて其點を望まんとするに止まる。如此くなる時は、鞭撻して學に勉めしめ、初めて漸やく學に勵むべし、自然に悦喜して學に耽るか如き醍醐の妙味を自得せしめんとは實に難し。

然るに、今の女學先生は、女生の爲に此の一大事理を欠くことに氣着かざるのみならず、反つて之を無用とし、之を蔑如し、女の學問なるものは、只だ淺薄卑劣の實用談にして充分なりと思惟せり。嗚呼、俗人の見は斯の如く言ふは、尚は可なり。苟くも人を教育すと云ふものにして如此くんば、世に人間の高貴を知れりと言ふべけんや。

たとひ野蠻人なりとも、之をして學に就かしむる最後の動機は、之をして眞理の威嚴、奇妙、美麗等に感觸せしむるより初めざる可らず。況んや、今日の日本女生を教育せんとするに於てをや。

女生もし眞理に樂しみ、智慧に遊ふの消息に一と度び通ずるあらば、悦意禁せんとして能はず、心躍り神動きて好學の念自然と發す、これ學に逹するの心なり。苟くも、此の涵養を與ふるの覺悟なくして、只徒らに女生に教ゆるとも、女生の能く京人形の如くなるとはありとも、之をして生ける美人、思慮あり靜觀ある哲女、高尚にして氣高き理想婦人たらしむるとは必らず難し。

而して、女生をして斯の如くならしめんには、女學先生先づ學に好み、學に篤く、眞理に戀ひ、智慧に遊ふの生氣なかる可らず。夫子先づ如此くして而して後ち感化活動するなり。

故に、今の女學に從事するものは、就中、學に樂しむ所ろの學者ならざる可らず。女學は卑近實用の塲ゆへ、只だ一と通りの教師にて可なりと思ふなどは、以ての外の誤解なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

開書

奉圜洲堀越秀君閣下書

青柳猛

圜洲堀越秀君閣下

天下は俗論の天下なり。巧言令色の徒肆にその威を逞ふして卓抜超越の士、徒に是れ責め是れ罵らるゝの天下なり。古來多くの聖者と多くの學者とを泣かしめしを、實に此の俗論なりとす。今や、閣下が人生の冬に近づき、漸く慰安平靜の所を得んとすべきの秋に際して、却て社會の冷遇讒謗に遇ふものあるは、深く悲歎に堪えざるところなりと雖ども、又その紛々たる俗論なるを思へば、素より何の憂かこれあらんや、たゞ一顰を價するに過ぎざるべし。世の閣下を譏るものは、皆な閣下が剛愎にして然も奢侈に耽けるものあるをいひ、特に閣下の俳優たるの故を以て、之を責むること一層酷ならんとするものゝ如し。然れども、是れ誠に所因なきことなり。世人の閣下を以て剛愎なりといふは、必ずしも閣下の剛愎なるが故に非ずして、かの意氣地なき藝人輩の如く、社會の鼻息たゞこれ窺ふことなくして、卓絶せる識見と主張とのあるに驚かされ、偶々相發せるの囈語のみ。眞の剛愎とは、自ら其非を知りつゝ、なほ之を遂げんとする片意地をいふなり。吾人は未だ曾てかゝることの、閣下にありしを聞かず。もし閣下を以て剛愎なりといふを得べくんば、スピノザの如きガリレオの如き、又素より無類の剛愎ものならざらんや。故に、吾人は世間に所謂剛愎の譏あるを以て、却て閣下を敬重することと更に一段を加へんと欲するものなり。今の時や藝術の士概ね其身を重んずること薄く、道を躰して動かざるが如きは極めて稀れなり。この間に立ちて一事をだも苟もせざることと閣下の如を見、寧大に人意を強ふすべきものならずや。

また愚かなる世の痴者どもは、閣下が馬車に乘り茅ケ崎に別墅を構へしを見て、彼れ是れ是非の批判を試むるに忙はしと雖ども、名も知れぬ馬の骨然たる馬鹿殿の息子さへ、二頭立ての馬車を轢らして意氣揚々たり、又た萬金を擲て歌ひ妓ばい、んたを根引きする一博士あるを知らば、藝術の奥に達せること閣下の如き士の、稍々大なる別墅を構へて馬車に乘りしと

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

て、何ぞ世の譏を買ふべきほどのものならんや。閣下にして若し馬車を轢らせず、別墅を構ふることなくんば、是れ却て怪むべきことなり、不可思議なることなり。吾人は寧ろ此くの如くにして、閣下が、俳優なるもの丶社會に於ける位置を高め、其品格を保持せんとするものあるに贊歎せざるを得ず。俳優は樂人畫人と共に藝術の士なり、詩人と共に天地人生の秘機を傳へんとするものなり。豈に今日の人氣役者の如く、世俗に媚び俗論に阿り、たゞ俗才の教ふるところに隨て、天下の賞讚喝采をのみこれ賭ふに力むべけんや。故に、世人の、閣下を目して奢侈に耽るものなりといふ如きは、素より俗說にして取るに足らず、吾人はたゞ閣下が常に其なす可きところを爲し、其ふさはしきところに據ると云はんのみ。

殊に怪しむべきは、今の新聞雜誌の記者なるものなり。此等の輩が盛んに閣下を論難するところを聞くに、多くは、閣下が人氣相手の愛嬌渡世なるを忘れ、所謂河原乞食の身分を越えて、分不相應の驕傲をなすといふにあり。もし夫れ閣下にして剛愎驕傲ならんか、將た奢侈に流れんか、素より攻擊排擠せざるべからず。是れ必ずしも閣下の俳優たるが故に非ずして、その人間の通義に背くものあればなり。されば、世若し閣下に責むべきところあるを觀ば、よろしく『人』としての閣下を責むべし。何ぞ特に俳優といはんや。然るに、事新らしく、河原乞食、なる賤しき言を擔ぎ出して、閣下を是非せんとするに至りては、實に言語同斷の暴言として吾人は之れを目し之を筆にするものを憐まざるを得ざるなり。これをしも、愚夫愚婦の言なりせば即ち止む、社會の耳目となり之が教導たるべき記者にして、なほ且つ封建の妄想に浸潤し、藝術と職業との神聖を無みし、閣下を乞食の位置にまで下げおとして以て自ら悅ぶ、恬然耻るところなきが如きは、寧ろ天下の奇觀にして、しかも咄々怪事なりといはざるべからず。是に至りて責べきは彼等記者輩にあり、閣下のことに非るなり。それ閣下が今日の如き囂々の批難を受くるやその始め、彼の新藏の逝けるに際して、旅中直に京に歸りて其葬りに會するが如きこともなく、依然その旅行を續けて毫も悲慮するところなく、その有爲の門弟を待つに頗る薄情ならざりしといふの一事にあり。然れども、吾人を以て之れを觀れば、これ却て閣下の偉大なるを證するものにして、決して閣下を譏る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べきの材たる能はざるなり。閣下にして若し其胸量豆の如く、凡俗を抜くこと大に高からざるの小人物たりせば、新藏の死の如き或は無限の一大事なるべし。されど、閣下は誠に當世得易からざるの偉人物にして、其氣宇の曠大なること太洋の面の如し。されば、新藏の死の如きたゞ一些事のみ。何ぞこれによりて周章狼狽、取るものも取り敢えず、漫りに動かさるゝが如きことあるをゆるさんや。加ふるに、閣下の氣を以てして靜に觀ずれば、命は天のみ人事のよく律すべき所に非ず。何ぞ事更に會葬の兒戯を演ずべけむ。世の見え坊たちの怒りに觸れしは、これがためなり。されど、詳に思へば、かの赤穗城の明け渡しに閣下の悠然たる内藏之助を扮して、まことに其眞に逼り、よく觀者をして感激せしむること大なるものありといふぞ、又この心あるの致すところならずや。」

吾人をして切言せしむれば、閣下の如きは、藝人に非ずして寧ろ明治年間の一大英靈漢なり、西郷大久保勝等の諸人と共に英雄の褒れを受るに足るべきものなり。カーライルも言へる如く、天才は凡て其本躰に於て相同じく、たゞ時代と境遇その如何によりて、其形ちを異にす。閣下が西郷たり大久保たり勝たることなくして、市川團十郎たるに至りしは、即ち境遇と教育との致すところなりと雖も、その英雄たり天才たるの本質に至りては、彼等に毫も遜色あることなし。その數々史乘の英雄に扮して誠に其人を觀るが如きの感あらしむるも、閣下自ら英雄の本質あるがためなり。閣下をして若し彼の時彼の世に於て赤穗の老士たらしめば、必ずやまことの大石内藏之助たりしなるべく、賴朝の世に出でしめば、惡七兵衛景清たるべし。故に閣下の劇の舞臺に上るや、由良之助と景清とを演ずるに非ず、由良之助と景清とに成るなり。されど、これ自ら英雄の資質あるに非ずんば、能はざるところなりとす。吾人甞て閣下が『春雨傘』の俠客曉雨に扮するを觀る。その己れを暗討にせんとせる鐘庄兵衛なるものを、さる裏二階に導ひて述懷を聽く時の如き、たゞ右に杯を手にし左に煙管を握りて、時々頭をうなづくに過ぎざりしと雖ども、何となく氣宇濶大なる英傑の態度ありて、その偉大なる人格を備るに驚けり。これらのこと、是れ實に吾人が特に閣下を稱して當世の一大英雄なりといふ所因なれ。もしそれ閣下と尾上菊五郎なる寺島君とを比せんか、吾人大に說あらん。

亞米利加だより

米國通信（第四回）

櫻井鷗村

◎リランド、スタンフォルド、ヂュニオル大學
(Liland Stanford Junior University)

此大學は桑港より南三十三哩のパロ、アルトに在り。故南太平洋鐵道會社長リランド、スタンフォルド及其妻ヂエーン、ラスロツプ、スタンフォルド兩人の其亡子紀念の爲めに、莫大なる金額を投じて創建せしものにして由りて其亡子の名を以て校に名く、千八百九十一年十一月一日を以て始めて校を開く。其基本金の多きと米國諸大學に冠するさ、其校長ヂヨルダン博士が、一傑士なるさを以て、創立日淺しと雖も、既に其名を成し、なほ將來米國學界に雄飛せんとや期して待つべきの狀あり。近々十年の間に、米國に於て、油王ロツクフエラーによりてシカゴ大學起り、鐵道王スタンフォルドによりてスタンフォルド大學の起りしをば、近世學問界の二大事件を以て稱すべきなり。

スタンフォルド大學の基本金は、約二千万弗にして、他に學校敷地八千四百エーカー、あり。校舍の建築設計は甚だ廣大なるものにして、現在は僅に其一部分を落成したるのみにして、餘は續々新築中なり。スタンフォルド夫人が、其夫氏の紀念の爲に建築中なる校正門は二十萬弗を要するものと云ひ、其圖書館はスタンフォルド氏弟某が五十万弗を寄せて建設したるものなりといふ。なほ又資產中には、五万二千エーカーの土地一ヶ處、二千二万エーカーの土地一ヶ所とサンフランシスコのスタンフォルド邸とを有す。事實上、廣大なるスタンフォルド家の財產は、遂に擧げて校有に歸すべきものなるが如し。現有資產の大部分は、實に該家より出づ。

スタンフォルド大學の學生中男女數の比較につきては、委しき統計を得ざれば、之を其概要に止めん

千八百九十八年即ち去學年度在學の學生數は卒業生級、正科、特別科生を合して

一千一百五十三人

内男　六百九十人

女　四百六十三人

男子百人に對する女子

六十七人強

なり。而して女生の撰科學科の多く、近世語、古語又は歴史教育等に在る事は、カリフォルニア大學の女生の多く、文學科及社會學科に在るが如し。然れども稀には工學の如きを修むるもの無きに非ず。而して女生增加の勢、遙に男子の上に在るを以てスタンフォルド夫人は、もと此大學は男子を教育するを目的として設立したるものなるに後日或は學生の女子の多きを致さんかを憂へ、本年新學期の初、女學生數は五百人を限とすることとなせり。

昨年五月より、今年一月までに同校が學位を授與したる數は、

A. B.	百七十六人	（男百〇一人　女七十五人）
M. A.	十人	（男四人　女六人）
Engineer	一人	（男子のみ）
合計	百八十七人	（男百〇六人　女八十一人）

以上に就きて女子の修めたる學科を示せば左の如し。

希臘語	三人	羅甸語	九人	獨逸系統語	十一人
羅馬系統語	六人	英語	廿一人	生物學	一人
教育學	六人	歴史	十人	數學	二人
化學	二人	植物學	一人	昆蟲學	三人
生理學及組織學	四人	動物學	一人	地質學	一人
計	八十一人				

此大學には二棟の寄宿舍あり、男女を分ちて寄宿せしむ。而寄宿舍に附屬して、皆一棟の躰操場あり。此大學にては、カリフォルニア大學と異なり、躰操の如きも、全く男女同一なり。たゞ身躰の健康の度に從つて、多少の差異あるのみ。勿論私立の事なれば、男生にも兵式躰操は無し。

男女共に寄宿舍に監督なるもの無く、いづれも學生の自治に任す。即ち高等の教育を受くる程のものなれば、互に自他を支配するの分別あるべき筈なりと教育の力に任ずるの主旨なり。また男女の交際も自由放任の主義なり。

◎加州の二女傑

以上二大學の女生修學の盛況を敍し來りて、而して今爰に、吾人は此等大學財政の中樞として各一個の婦人を有することを記臆せずんばあらず。予は今此等二婦人を稱して加州の二女傑と云ふ。蓋し其實、此名に負かざるなり。この二女傑とは、即ちカリフォルニヤ州立大學に於ける Mrs. Phobe A Hearst とスタンフォルド大學に於ける Mrs.Jane Lathrop Stanford. なり。

○ハルスト夫人と加州大學

ハルスト夫人は舊と、ヴァルヂニア州の人にして、後にカリフォルニア選出上院議員となれる、南太平洋鐵道會社大株主の一人たるハルスト氏に嫁し、現今は寡婦の身となれり。子息ハルスト氏は、桑港エキザミナー及紐育ジョーナル兩新聞の持主なり。ハルスト夫人は常に心を教育事業に用ゐ、資を投じて教育したる學生の數も尠からず。また桑港の爲め、小兒救濟所及び貧民の幼稚園を起し、またワシントンにフィービー、ハルスト女學校を起し、ペンシルヴァニア州立大學に多くの資金を寄附し、またモンタナ州、アナコンダのハルスト自由圖書館及びサウスダコタ、州リードのハルスト自由圖書館を起し、自力之を維持せり

ハルスト夫人は永くカリフォルニアに住居せるの故を以てか、加州大學の爲に資を投ずること甚だ多く、就中同大學女生の敎育を補助するに勉めて、一年三百弗宛四ヶ年連續の修學金八個を設け、大學は之を稱して、フィービー、エー、ハルスト、スカラーシップと云ふ。なほ他に四個の一時修學金を、女生の爲に設けたり。

ハルスト夫人が加州大學と大關係を有するに至りしは、即ち大學校舍增築圖案公募事業よりするものゝ如し。大學の關係者は、大學の校舍の狹隘にして、到底年々增加の學生を容るゝに足らざると、また一つには大建築を起して、加州の壯觀たらしめんとの希望とより、千八百九十六年に此の新築圖案に賭するに、一等一万弗二等四千弗三等三千弗四等二千弗五等一千弗の賞金を以てして、廣く世界の建築家の應募を求めたり。新築の事議決せらるゝや、理事員會は數ヶ月にして、多くの慈善家よりして四百万弗の寄附金を得たりと云ふ。然るに又ハルスト夫人はこの設計を聞きて、大に之を贊助し、懸賞募集に關する費用は、悉く之を負擔し、また採用したる圖案中に就きて、二個の建物は、故ハルスト氏の紀念として寄附すべしとの約束を得たり。而してこの募集の爲に費したる金額は二十万弗に達し、なほ補捐金として十万弗を銀行に預け入れたり。三年の後本年九月、懸募圖案の最後の審査をなして、佛國の建築家ベナル氏其一等賞を得たり。之が審査に任じたるものは、英米佛獨の有數建築家四名なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

此懸賞競爭、即ち名けてハルスト建築競爭と稱するものは、實に米國近時の一偉觀たるものにして、而も之を能くしたるもの一婦人の力に在りとせば、また驚かずんばあらず。ハルスト夫人の加州大學に於ける、その關係あるが故に、今や撰ばれて理事會の一員となれり。而して夫人の理事員となるや、其發言は、金力と稱する大權能を伴へるが故に、常に大勢力あり、以前には、大學の方針として、婦人の敎師を置かざりしも、ハルスト夫人の提議によりて、その方針は變更せられて、今日にては、女生の取締兼顧問たると同時に、敎授をもなすを得るものと女生監督なるものを置くとなれり。

○スタンフオルド夫人

スタンフオルド大學に於ける、スタンフオルド夫人の、其勢力の如何に大なるかは、問を要せずして明かなり。之を知るが爲に一二の例を擧ぐれば、女生の數を五百人に限るべしとの一言は即ち法となりたるが如き、また新建築中の諸建物は一々婦人の意匠を加へ本年春期に落成したる集會堂の廻廊の階段が、全躰の構造に比して、狹小なるも、婦人の意志に由るものなりとぞ。畢竟するに、此大學たるや、スタンフオルド夫人存命中は、スタンフオルド家の一部にして、其圖書館は、スタンフオルド家の書齋の一なり、また同家の寶庫は即ち大學のミユーゼアムなるが如し。ミユーゼアムには、故スタンフオルド氏の遺品、夫人の美服盛飾、亡子の玩具を收めたる二三の別室あるを見ても、大學の性質は多少知らるべし。後日には、スタンフオルド家、全く變じて、スタンフオルド大學となるものなるべし。

* * * * * * *

予は彼二婦人を以て、加州の二女傑と稱したるが、是れ單に其効果の方面より觀たるの評にして、果して、二婦人たるものは、如何程の人物なるやは、未だ知らざれば、之を云ふ能はず。素より二婦人をして二大學に重きをなさしむる所以は、其金力に在り、必ずしも智徳によるに非ず。而して其金力なるものも、また其亡夫の遺産たるに過ぎず。故に彼等の恩澤に浴する者に非ざるよりは、甚だ其盛徳を謳歌するの要あるとなし。吾人は、たゞ彼等が、よく亡夫の遺産を、道の宜しきに利用するの點に於て其行を美なりとせん。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

評　論

同志社と故新島襄氏

東京にて故新島襄氏の十年紀念會ありし。其の會合の如何なる景況なるかは、吾人の少こしく注意せし所ろなりしが、當日偶たま雪大に降り、六花繽紛都門を白化す。而して、紀念會席上に演說すべしと公告されたる德富氏は西京に在て會せず横井氏は風邪の由にて來らず、小崎氏は忙中車夫なしとて斷はり、ひとり海老名彈正氏　新島君を愛國者なりとして追悼せられたり。

新島君一去して后ち、同志社には種々の騷動ありき。幾推轉幾變遷を經て、今や新進少壯の社員若干氏、之を管理せられ、小崎氏が初めに着手し、後に横井氏によつて確定せられたる分離方は取消されたり。今の同志社は、義當に外國傳道會社と握手すべくして、而も外國宣敎師は冷然として應ぜず。其關係は依然元の如く塞むきものと見受らる。

此に於てか、大に同志社の衰微を云ふものあり。内村氏の如きは、同志社と靑年會館とを以て基督敎界の二大厄介物なりと罵言したり。素と是れ極端の說なれども、多少此般の感覺あるものは、獨り内村氏のみにあらざるが如し。

吾人は同志社の一盛一衰によりて別に新らしき經驗を得ざりし也。何んとなれば是れ當然の事にして、無論初めより斯くあるべきものと承知せられ、何處に於ても何時に於ても常に斯くあるべきものと想像せらるるが故なり。左れば更めて論ずべき價値なきものと雖ども、餘り普通の評論の異様なれば、此際、試みに一言を發せん。

夫れ、内外人共同の事業は、甚はだ六かしきものなり。六かしけれども、若し成功すれば至つて美なるとにして、人類として誇るに足る者なり。但だ中々の難事にして、多くの思慮才覺を要するとなれば、之に相當したる經驗を有して而も聰慧圓滿なる技倆あるものにあらざれば、之に任ずべからず。左なくば、只だ失敗に歸するのみならず、失敗の後は反感情を起し、反つて人類としての離隔を彌よ助長すれば也。

新島氏の如きは、素と慷慨の愛國者にして、多血なる志士の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

標本を備へ、長らく西洋に留學して、新英州の空氣を呼吸し、甚はだしく其美に心醉して、自己の名をすら西洋音に致し、或る時は、日本も亦た合衆聯邦の一に加はるべしと迄でに立論せられたる程なれば、一方に日本を熱愛するの精神を以て、他の外國人と握手提携するには、恰好の人なりし也。

然れど、新島氏創業の日、及び其在世の時に於ける如き基督教逆境の時世に立ち、資力は殆んど全く外國人に仰ぎ乍ら、優に日本人の地位を依持し、同志社をして彼の如き發達を遂げしめ、世上に基督教界を代表して、一時青年の謳歌を受くるに至りたるは、非常の才德あるにあらざれば能はず。新島氏は確かに一人傑たりし也。

夫れ、困難の事業を初め、困難の地位に周旋し、只能く、信用と、經歷と、技倆とによつて、彌縫、疏通、一致せしめつつありし際、當局の人傑俄然として死せば、其の後に一騷動あるべきは無論の數なり。もし騷動なくんば、彼の人傑に優りたるほどの人傑か、かの人傑に優りたるほどの經歷信用ある人物の存するなり。苟しくも之れなかつせば、一時騷動のあらんと勿論にして、何の珍らしきともなし。小さき一家の相

續に於ても常に此のとあり、左して驚ろくべき筈のものにあらざる也。

但だ必らずや此の騷動あり、而して能く此の騷動を鎮撫し、第二の中心點となり得べき人物の出るに及んで、初めて眞正の相續は行はる、所謂ゆる第二世の事なり。天は此の第二世を定め、之に新らしき中心點を歸せしめんが爲めに、故さらに一時の騷動を惹起せしむ。もし此の騷動なかつせば、平凡者も傑士も、人物も俗人も同樣に見做さるべきに、幸ひにして一時の騷ぎあり、中々の難儀あり、手を着ければ只だ損をするのみの不利益あるが故に、則はち初めて眞乎の人物を要求し、其の手腕の顯現を衆望によつて信ぜしめ、以て第二世の地位を安着す。もし世に盤根錯節なかつせば、安くんか利害を辯ぜん。同志社に一時の騷ぎありしは、同志社の幸にして、即はち新島氏の祝福なり、然らざれば、新島氏に似ざる第二の新島氏出でて、其の第一世を耻かしめしならん。

故に、吾人は同志社の騷ぎと衰ろへとを聞きて曾て奇しみたるとなく、只だ何人か能く其の難關を透破し得るやに注意して、少からぬ觀察を續けたり。當局者往々云く、社員の無情、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

斯の如し、校友の不通斯の如し、西洋人の我儘斯の如しと。之れ世に珍らしきとならんや。人もし皆な逆境難境に同情を表し見るゝ程ならば、左したる逆難の境にあらず、天下皆な我を誤解し、天下皆な敵たるに至つて、初めて之を逆境とす。近き數年間に於ける同志社の騒ぎの如きは、尚ほ騒亂の足らざるもの也、これ即はち未だ眞人傑の出でゝ之を救ふに至らざる所以乎。

故に吾人は同志社の衰微の尚ほ甚だしからざるを不可とす、なまじひなる思慮を以て救ひ得べしとする人の尚ほ少からぬとを不可とす。人もし大抵絶望し、人もし大概ね手を引くが如きに至つて、決斷初めて決行すべく、傑手初めて揮ふべし。新島氏の望みに純する者ならば、必らずや此の如く見ん。何んぞ、十年十五年の少時日を憂ひんや。大事業は百年の事なり、一小進退を以て是非すべきにあらざる也。新島氏初めて内外人共同の美なる事業を創めたり、此の精神は新日本の爲に永久紀念せらるべき價値あるもの也。

夜叉鏡

黒光女史

これ一女子の寄書なり、嚢に鬼面白相の記者既に十分に女性を評論せり、女子にして今又評論ある亦可ならずや。世の有識男子にして答ふる所あらんとせば、遠慮なく文を寄せよ。則ち當欄内に掲ぐ……記者白。

○昔より男心を秋の空にたとへて、變り易き物の張本に數へたるもげに理りなり　かの飄々翩々として蝴蝶の百花に戯るゝが如く、甘き露を吸ひ盡せば、後は用なしと弊履を捨るが如く、能く彼が愛人を捨つるなり。熱情ある男程、うれしくも亦常にならぬ者はなきぞかし。

○男は女を以て己れの慰の看用と思へど、此れ人の目にある塵を見て己が目の梁を知らざる故なり。試みに見よ、かの箱根若くは日光の如き閑靜幽邃の地に、男女共に避暑に行きたるなどの際、物の序手に、（己が兄の友人なぞの）、脱捨てある脂臭きシャツの一枚も洗ふてやれば、其男は俄かに女が難有なり、直ちに之を以て心ありての所爲ならんと、獨り呑込み、遂には例の身も生命も捧げ度しなどゝ洒落るが常なり。之等は、へボ傳道士が能くはまり込む場合なり。

○女は如何に親密なる男に對しても、結婚の目的を以て交際するもの甚だ稀なり。然共、男子は僅か三四回の面會にて、ソロ〳〵ほのめかし來る者多し。甚しきは、失戀の苦みある女なりと聞きて、一寸衝ついて見たくなり、はざと厭世趣味を帶びたる口調にて、さぐりに來るものさへあり。折角、面白き異性の交際も、男子より此申込を受るに至れば、忽ち興醒め、厭氣のさすものなり。

○今の自稱文學者詩人の、汚穢卑劣なる事は、云ふまでもなけれど、げに彼等は、新聞の三面にある、少女誘拐的の悪黨なり。純潔無垢勉學に餘念なき女生の胸に、ラヴとか何とか怪しからぬ火を焚き附け、其上に、孃もし聽かずは只死あるのみなどと、おきまりのおどかし文句を使用し、一方には、スウイート、インプレースなどいふ西洋の小説めきたる事を實際に演じて見せ、充分魔醉するを待ちて、畜生道に誘拐せんと試むるなり。もし女生にして、確乎として動かざらんか、彼は此汚らはしき失敗を最後として忽然他園の花に移り行くか、又は飽くまで其女生を中傷して、僅かに己が憤怒を晴らさんとするものなり。

○男子は大膽なれ共、亦臆病卑怯のことあり。最愛の女子には、生命も惜まじといひながら、もし其女子との關係によりて、己が迷惑不利益とならんとするを見れば、彼は巧みに其關係をのがるゝの計畧をめぐらし、素知らぬ躰になりすますこと、往々あるなり。

○苦心慘憺、漸くにして掌中のものとなしたる間柄ならざるも、凡て男は、其妻の獨りにて外出するを、いたく忌むの傾きあり。強て出んとすれば、眉宇の間何となく不穏の色をあらはし、必ず、早くお歸りと注意を促す。

○如何に細かに女性を穿ち得たりとほこる男も、女性が同性を知れる程女性を知ること、殆ど不可能なり。

○或事情のために破裂を來たしたる場合に、男は眞面目に女の誓を信じ、誠に終生獨身孤立の生涯を送るならんと心配する丈忠正直のものなり。

○奥州男子は、男は好くて眞面目なれ共、武骨で、無風流で、氣轉がきかず。其上間がぬけて、小膽で、寶の山に入りながら、ミス〳〵人に渡して、至つて平氣なり。

○信州男子は、金もうけに巧みなり、殊に妙を得たるは、と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぼけた戯をすると也。

○逃げても追ふことを知らぬ男子は、趣味なくして、面白からず。

○男子は總じて氣が若きものにや、齡已に七十を越え、くの字なりの腰をしても、血氣衰へず。十七八の濃を抱いて、年老ひては活きた娘に限ると。油斷のならぬは男なりけり。

○男は「のたまふまゝになむ」といひし玉かつら的の女をよろこべど、意志強く、嚴格なる女を、あまり好かぬものゝ如し。

○或女、或文學者にいはく、「月のなき闇夜に、知らぬ男來りて、何處ともなくつれ行かんとするも、猶ほ抗まずして從ひ行くやうな女を、男の方は好まるゝならん」と。

書懐

田村鴨村

三十年來幾辛酸　南船北馬征衣寒
始知經綸非文字　一劍燈前寒膽肝
諸君休作伏櫪歎　何人更歌行路難
肚裏猶貯蓋世氣　獨向原中迎一歡
由來時危偉人出　只今誰能致治安
回首英雄皆黄土　百年依然奈時艱
乾坤日待快男子　欲埋俠骨山河寬
儘教孤月照顔色　紛々桂影落欄干

文藝

園囿山水（上）

山下石翁

○古人の園庭に於ける、由來最つとも深し。一木一草一石一水の排列、みな慘憺たる經營より出でたり。五歩の庭、深山幽谷をうつし、十歩の徑、大道小義にかたどる、中々に世のつねの思ひ付にはあらず。今人、由緒を知らず、就中、風致を殺ろす。○今ま、讀めるまゝ、聞けるまゝ、思ひ出るまゝ、左に列記して同好の士に見し、併せて雅懷の樂しみとす。

○白樂天、小池を穿ち、竹を植ゑたり。其の語に云く、竹は是れ心虚ければ、吾友とし、水は是れ性淨ければ吾師とす。

○古より名ある山水にて、文徳天皇南殿の御山は、太政大臣良房卿、作る。宇多院、昌泰三年に御出家あり、後、亭子院にうつり玉ふ、かの山水は寛平皇の作。白河院の御時、新宮の山水は、權大納言義延卿の作。大政入道清盛が福原の新内裏山水は、大藏大輔義盛の作。御深草院のお子、禪林寺殿は

御出家ありて、東山の山ギワに山水を構へ玉ふ、仁和寺僧正了遍ハ作る。嵯峨天龍寺内西方寺の山水は、夢想國師の作。

●山水正面の奥には、三尊の石を立つ。是れ、主人守護の石とも云ひ、此を定めて後ち築山、草木を置るなり。又、三尊石の下には蓮華石を立つるもあり、其數は不定なり。

●瀧石には是非、不動石あり、之を瀧副の石とも云ふ。其左右に童子石を立つる例なるが、其數は、八、四、二等色々あり。即ち、八大童子、四童子、二童子にかたどる。且つ不動石の下には座石を立つ、これ不動明王の大盤石に座するの意にてあり。

●山水の中央に、蓬萊山を置く、祝ひなり。蓬萊山は、龜形ゆへ、龜頭石、兩手石、兩脚石、尾崎石などを置く。此の蓬萊山には必らず松を植ゆ、松なければ、龜形の石を立つ。

●山水の前兩端に、必らず二神石を立つ、又二王石とも、二柱石とも云ふ。最とも石の形により、二つ三つ副ゆるともあり。

●瀧口の石には、水受の石、淺副の石、波分の石、水分の石など云ふ石あり。惣じて瀧口の山水は大事なり。

●山水に橋をかくるは、河すみ中ほどの所にあるべし。瀧口にかくると云ふとは無きとなり。但し大なる山水にて、瀧の上の高山に枯木などにて渡すともあれど、此は猿などの渡りゆく道の心もちにてあるなり。

●河すみを、水吐とも云ふ。瀧口、南にあらば、水吐は北の方にあるべし。

●河すみの石には、水よけの石、落水石、波受の石、塵流石、木の葉返しの石など、いろ〳〵あるべし。又、水門石と云ふものあるべし。

●山水の兩端に必らず二島あり。端近くある島を客人島と云ふ、玆に、客拜石、對面石、履脫の石、踞宿石、水鳥岩等あるべし。奥にあるを主人島と云ふ、玆に、安居石、腰息石、遊居石等あるべし。

●前に言へる正面奥の三尊石の前には、必らず禮拜石あり。石の大小にて、一つ、二つ、三つもあるべし。三尊石の背は山あり、山なくば、樹を植ゆべし。

●左右の方の奥の高山には、山頂石、山腰石、嶺脚石、慶雲石、霧隠石、晴月石、月隠石などあるべし。又、山路には、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

道居石、行路石などあるべし。すべて此等の石の多少は、山水作り方の員、築、行により斟酌あるべし。又、山間の島上座石あり、木の本に置く、別して秘石とす。

◉石橋には、必らず橋ハサミの石、四つ、又は所により三つ二つとあるべし。水キワの石に、遊魚陰とて、下のすきたるを立つとあり。

◉立石に色々の異名あるあり。鴛鴦石と云ふが水中にあり。水分石が河すみに。瀧副形釣石は峰に。拝帶石は島に。篭崩石、怒濤石は水先に。硯用石は路又は島に。虎豹陰石は谷に。虎溪豹陰石は山路にあり。

◉立石の陰陽と云ふ事は、惣じて高く立たる石を陽の石とす。瀧口は水を司どるゆへ、陰とす。大故、瀧口に高く石を立つるは、陰陽和合のこゝろ也。横なる石は陰、すべて石のみならず、木にても草にても、竪を陽、横を陰とす。不立不臥の石は陰陽和合の石なり。又、川よけの石は、いかほどありとも、名石の數には入らず。

◉山水の島の名に、吹上の島、浪寄島、打寄島、中島、客人島、主人島、山下濱、洗浪島などあり。

◉大なる山水には、山影、谷間などに、田畠のある心あるべし。もしくは、川すそに置くともあり。

◉幽谷の心には、立石を置かず。陰のひかたに何れも石なきゆゑなり。又、入江の邊には、蘆、杜若、菖蒲などを植ゆ。

◉木を植るに、棕櫚、南天、五葉松、柏槇、などはいづれも島に用ゆ。杉、枇杷、檜、白檀、椿、柊、石楠花、蜜柑、榊など、又常盤木は、山嶺に用ゆ。築山なくとも、山嶺の心にて植ゆ。芝蘭、紫苑、萱、をばふし、芍藥の類は、島の谷合に用ゆ。榁子、萩、柏、楓、女郎花、は山に。花丁子、桐、藤、百合草は山に、蓮は沼に。芙蓉、銀杏、山吹、つゝじの類は山又は島に、名草名木は格別なり。

◉山水の造り様、公家、武家、寺社、いづれもひとし。左れど、武家の山水には九字を表し、四堅五横と云ふとあり。堅の石四、平の石五つ立つるとにて、不立不臥石は横竪の石にあらず。大故、なげかけたる石、三角の石、有さかりの石、片板の如き石などは添石に用ゆ、四堅五横の石とせず。

◉寺院などにも、四堅五横の意、用ゆべし。もと怨敵退散、惡魔降伏の意なれば、専ばら武家のみと限るべからず。

●四竪五横の九つの石を置く九字に、一、臨。二、兵。三、闘。四、者。五、皆。六、陣。七、烈。八、在。九、前。十、勝など云ふとあり。

◉律呂の石と云ふとあり。律の石とは、能くすわりたる石なり。もし欠けたる所あらば、添石を立て、わき方にも石添えて、威儀具足するを律の石とす。呂とは、一つ宛、二所、三所に置き、其間五寸六寸又は一尺ほどのけて、きれ〲に立て置く、之を呂とす。人生、仁義禮智の備はりたるを律者と云ひ、五常かけたるを、呂なる人と云ふも、之に準ずるものか。而して、律は吉、陽。呂は、凶、死、陰等の形ゆへ、呂石は、山陰などに立つ。

◉寺院の山水には、山麓に木を植えて、木の下に平石を置くを秘事とす。此石を上座石と云ふ。之は、天竺マカダ國カナ山の麓に、歡喜樹と云ふ木あり、其木の下に上座石と云ふ石あり。三世諸佛出世の時、此岩の上にて正覺を得玉ふ故、正覺石とも云へり、又三界尊萬石とも云ふ。かの客人島、主人島などには、此石の心得あるべし。

◉山水を五大に配するを一つの故實とす。山島は地に配し、海水は水に、花樹は火に、諸木諸草枝葉の青色は空の德。此の五字五躰本有として法界に躰す。

◉又、一説に山水諸石を佛菩薩に配當す。即ち、山水は西方淨土九品を表す。石は仙弁明王諸天に配し。島山平沙は九品の次第になぞらへ。三尊石在るところ、上品上生。左の山、上品中生。右の山は上品下生。中島は中品上生。山腰島は中品中生。瀧腰、中品下生。手崎左島は、下品上生。左の島は下品中正。平濱は下品下生。石は二十五の菩薩。河は七寶の池。中にかゝる橋は弘誓の橋、大勢至菩薩の影向の蓮臺。或ひは又、十六大星、十二天、十二宮、二十八宿等とも配す。

◉山水と性合の事あり。南にある山水は火性。北にあるは水性。東にあるは木性。西にあるは金性とす。而して、北にあるは南ムキ、東に在るは西ムキ、西にあるは東ムキ、南にあるは北ムキに心得、扨て、木性の人は北相生、西は相尅。火性の人は、東にあらば相性、西は相尅、土性の人は、東に構へ相生、南相尅たり。左れどあり來りの庭は構はずとす。もし初めて造るときは、この心得あるべし

◉庭を一覽するには、先づ椽の端へ上り、客人島手かけの石

の前に踞まり、右の手をつき、心幽玄に見て、扨て主人島の前に又左の手をつき、いかにも静かに見るなり。其後、中島礼拝石の前にて、右の手をつき、中島より滝口三尊石を見る。又、眺める時は、滝口より三尊、中の島、主人島と、次第に心をつくべし。客人島にて、左の手をつきかへるべし。立石の上を左右に飛越などすると、固く無用なるべし。

●燈籠にて春日三作と云ふは、春日の秡殿、大黒殿、水屋の三ヶ所にあるものを云ふ。

●又、名物の燈籠とする九基は、般若寺、西の屋、燈明寺（奈良より一里丑寅、加茂と云ふ所）、橘寺（和州）元興寺、三月堂（東大寺）にあるものなり。

雑録

社外詠草を待つの微旨

歌の徳は天地をも動かすと云へり、況して其他をや。猛き武士の心をやわらげ、鬼神のしうねく難するをも拂らふ。扨て、日常人間のあひだに益するとや、更に極めて多かるべし。歌ならでは、心に思ふ切なる誠を露はしがたし、いかに巧みなりとも、文にしては、恥かしき心地もすべく、読む人も左程とは感ぜざるべし。思情を疏通し、鬱結を解散し、頓に人心を一轉せしむるなど、すべて歌の力に及ぶものあらず。或は其子に教訓を與へんとする時など、累々たる數百言よりも、一首の血涙を吐かば、終生忘るゝことなかるべし。遠征の良人を念ひ、老ひたる親々を問ひまいらすなど、歌の簡にして情長きに比すべきものはあらじ。すべて此等の事、名文名章をもてするも倘ほ盡しがたきを、僅かに三十一字を以て辯じ得、餘韻倘ほ太はだ長し、これ豈に歌の特色ならずや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

就中、女子の歌を學ぶは、極めて相應しきとなり。歌よまぬ女は、花に香りなき心地して、いと殘り惜し。歌は、言葉少なく情濃やかなるとを旨とする女性の爲に、本來具備せられし風雅の武器にてあるべし。之を磨かずんばある可らず。

此の主旨をもつて茲に詠歌を女流の間だに普からしめんとし、特に社友紫苑山人に請ふて、一社を設け、吾黨同志の歌よまんとする者の爲、削正を托す。惟ふに、想足らずして辭ば餘り、情貧しくして飾り多き歌は、吾黨の好しとする所にあらず。眞摯にして熱情あり、誠實にして風雅の趣きある躰をこそ理想とすれば、久しふして此の舍の成就する所ろ、蓋し或は一種の特色を發揮するともあらん歟。

◉

紫の舍社中募集に就いて

余さきに池袋清風大人に就きて、敷島の道に入りそめしより、おぼつかなくも、たどり來りしと、茲に數年、やゝ諸家の說を聞きつゝも、殊に香川翁の高見に推服する所あり。爾來歩一歩、ます〱前途の杳茫として遼遠なるに驚きぬ。故にもとより敢て自ら得たる所ありといふにあらず。然りと雖輓近人心のいよ〱浮華に流れて、誠實すくなく、詩人の盛名をてらひて、放逸なるに驚かずんばあらず。是れ即ち有志者と共に、詩美神の名に於て、慨す可きの至りにあらずや。故に茲に同好の士女諸子と共に、一社を結び、相共に研鑽して、斯道の機微を明らめ、あはせて詩美神の祭壇に跪きて、心より誠實の牲をさゝげんことを期す。

是を以て、先進者には指導せられ、後進者とはともに相提携して、道に進まんとす、是れ本會の要旨なり、豈別に他意ありとせんや。

寄稿者は、左の條件を知了せられたし、

一、元と餘暇を偸みて、從事するものなるが故に、返稿は事情の許す限りに於て、速かなるべきこと、

二、佳作と認めしものは、之を女學雜誌紙上に掲載して、同好の人に割愛すべきこと、

三、返稿のために、相當の郵券を送附せられ度こと、但し前述せしが如き旨趣なるが故に、敢て期定の報酬を要せず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

友誼のためとしては、賜るも可なり、賜らざるも亦可なり。

明治三十三年一月　紫の舍あるじ　湯谷紫苑
東京府駒込郵便區東鴨村庚申塚

おもふどち袖ふりはへてむさしの丶
　むかしのゆかりいとゞ見ましや

人生の天使觀

天行

芳紀方に浦若く、緑髪肩にかかり、翠顔希望の光を帯び、容色淡き紅を湛へ、頬肉ゆたかに、夢の如き微笑を含み、その脳髄は單純に、その心情は濃潔に、その擧動に餘韻ありて、その態度の淸高なるもの、これ我人生を裝ふ天使の面影の、一端を描寫したる者ならずむばあらず。斯る天使は百花匂をおくる深窓の下に、螢雪ほのぐらき學窓の下に、秋風哀をもたらす破窓の下に、好運の白雲の天降るを待つて、悠々千里の天外に逍遙せんとて、何に準備に汲々たるかを見よ。

而して未た深刻なるわが人生の、喜怒を了解する能ざる、渠等か春の如き理想を抱きて、蝴蝶の夢むにも似たらむ脳漿に、花を彩るしはらしき仰希は、千差萬態の變化を有するが中にも、殊に翩々たる才媛を以て、浮華なる獨立を以て、社交の花役者を以て、家庭の遊樂を以て、その情緒の優劣に依りく、その夢想を異にすれども、あるひは高く、あるは低く、深夜恍惚として胸間三寸の幻境に畫く、夢中のパノラマこそ、何にも天使らしき無邪氣なる者と謂はざる可らず。然れども我人生は不孝にも、賢女を賢女たらしむる能はず、多くの烈婦は涙ながらに苦き杯を呑み、佳人は懷刀を擬して月に歎ち、淑女は痴漢の寵愛を別たんとするの今日、到底渠等の夢想を成就し得るものに非す。否、啻に今日に於てのみならず。恐らくは千歳の歷史を經過して、社會は理想時代にその步調を進むるとも、渠等の夢想は、愈々その自由狂奔の餘地を失ふに至り、竟には天際の浮雲と共に、何れにか消去るべき命運を有するに過ぎず。さは謂へわが人生は、人類の夢想を悉く否定する程に、如斯冷酷なるものにあらず。唯わが人生は、其夢想の淸高なるか、怯劣なるか、生命を有するか、眞理を有するかを實驗せんが爲に、一種の外科手術を以て、渠等を

優待する者なり。優待すと雖も固より一種の非常手段なるを以て生殺死活の問題は半は我人生の常理に存せざるを得ず。されば始には賢女を夢想したる者、憐れにも我手術に遭ふに、毒婦と化するもの在り、優美なる佳人にして、鬼面鬼相の妖婦となる在り、高貴なる淑女にして、痴人の譫語に狂態を寓するに至れる在り、されど亦我手術の功果を以て、一種の女丈夫も淑女と化する在り、趣味なき女性をして、涙の人と化する在り、未來の外務大臣の奥方を夢想したる者、今は貧聖を友として、賢德を成就する在り、浮氣なる女性も、質實の人となる在り、之を以てわが人生が、渠等に大膽なる非常手段を實行するは、渠等をして其假相より脫離せしめて、不朽の實相を發揮せんとする也。

我人生は斯の如き非常試煉を實行して、花の如き天使の生涯を手球に採り、之を愚弄し、之を翻弄し、之を苦笑し、之を嘲笑し、之を殘遇し、之を酷遇する者なるを以て、境遇の變化は性格の變化を産み、性格の變化は理想の變化を産み、理想の變化は氣品の變化を産み、恒に舊人を破壞して、新人に改造するの妙作用を有するを見る。既に自然陶汰の斧は、人生の木の根に爪れて、一種の外科手術は行はれ、人格の非常試煉を實行しつゝあるが故に、渡に船を得て彼岸に達するが如きとは、我人生に於ては殆んど雨夜に明月を得むと欲するが如き、難事に髣髴たらむと謂ざる可らず。偶々渡に船を得るの好運に會するも、弁は尠くとも、短艇を驅て遠州灘に向ふ位の、氣象を有せずむばあらず。否とよ天使の姬達は、滊船の航海に怒濤を乘切る位の、冷靜なる氣象は有せざる可らず。斯冷靜なる氣象は、天使の姬達が家庭と學校の生涯に於て、浮たる夢を夢むとなく、わが人生の外科學を研究して、わが手術に堪へうる丈の、精神力を養ひ給ふ時に於て、始て獲取するを得る者なり。斯精神力は我人生が非常手術を行ふ塲合に、世上の姬君がその苦痛を忍ひ安からむ爲の、奇異の秘法なりと信ぜざるを得ず。此秘法の傳授は、宣教師女學校の外國女教師の如き、女性に小說の稱讃を否認せんとする高等女學校長足下の如きが、果して完ふするを得るや否やは、わが人生の千古の疑問たらずむはあらず。

試みに外國女教師に就て其一斑を調むか、今日に於ては日本の皮相の事情に精通せんとする者在とするも、开は唯皮相に

過ずして人生なる者は依然として了解せさる處、殊に我等の師たる外國女教師の故國は、多くは思想の自由を否認する、保守的基督敎の亞米利加にして、其信仰は單純なる信條に依て、其思想は獨斷に近き敎論に依て、各々訓練を受けたる者にて、加るに數理的頭腦、科學的興味を以てする者なれは、その堅固なると金城鐵壁も啻ならす、殊に小學に入て大學を卒業するまて、幸に人情、風俗、文化の統一を有して、混亂の時代を過去に葬たる彼邦に於て、殊に男性の地位よりも、女權の高貴を過重せんとする國風の中、最も自然なる、最も自由なる、亦最も流麗なる、學校生涯の華園を出でて、浮世の嵐の如何なる者なるやをも了解するの餘裕なく花間の啼鳥枝より枝に飛行か如く、滑なる舌と銀の如き清音を以て囀り乍ら、極東の女學海に渡來せられたる者なるを以て、殆んと天國より天國に移住せられたる女神に似て、地獄廻の日記などは夢にも記憶せられさるが故に、渠等に依て敎育せられたる姬君は、智慧の樹の果を喰ざりし沃田の神人の如く、些少の複雜なる問題に接觸するも、到底解釋するの識力なき、誠とに單純なる頭腦を以てる天使に劣點として一たび、我人生の冷酷なる悲事に打たれなは、外科手術の甚敷に及ざる先に、既に、垂死の恨事を活現するに至らむ。これ彼一流の女敎師が、人生の悲愁を根本的に玩味して、積極的解釋の能力を建設したる者に非ざるが故に、單純なる渠等に化せられたる姬君は、その師に勝る可くもあらで、一層單純なる者となり畢て、爰に女神の兒の天使たる仕格は、完ふせらるゝに至むかし。

或は一時小說禁止問題を以て、女學界に喧噪を極めたる、高等女學校長諸先生に對しても、我複雜なる人生は敢て注意する處なかる可らす。諸先生の中には孔孟の所謂、治國平天下の倫理德道を以て、頭腦を訓練せられたるも多かる可く、一世の英雄雄しく風雲に際會せずして、女學界の孤島に配所の月の悲運を歎ち給ふも在るべく、優美強健かね備はれる愛國的烈婦を造らむとて、赤き心を以て所謂與業に從事し給ふ方々も多からむと雖も、大體に於て諸先生の趣味好尙等を洞察し來れは、女子敎育などとは殆むと天性柄になき事業に、從事なし給ふたる者と思はるゝなり。女子敎育とは我人生の理想より觀察すれば、所謂英雄の手腕に待つ可者にはあらで、人生の意味を深に味ふたる女性に依て、始て成就せらるべき一

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

世の大問題なり。斯女性とは結發動物と断發動物との、外觀の云爲に抗泥する者にあらず。世には結發動物にも、涙を有せさる豪傑も在り、断發動物にも、哀を知れる女性も在り、故に男女兩性の中に於て、人生を深く了解せる女性の、振つて献身的擧動を試む可き、快心の事業なりと謂ざる可らず。別言せは斯女性なる者は、之を男性としては、女性化したる木村長門守を意味し、女性化したる精神家を意味し、女性化したる人生の閲歴家を意味す。之を女性としては、男性と同意味に於ひて、人生を了解せる女性ならざる可らず。人生の喜愁を主觀的に玩味して、積極的の氣力精神ある女性ならざる可らず。鍋墨を涙にて溶きながら、尠くとも人性の哀を歌へる底の、精神的閲歴を有する女性ならざる可らず。係る人物に依て女子教育は實行せられむか、庶幾くは女性の漫讀する小説美文に對する態度の如きも、自然に解釋せらるる者なくむばあらず。日本現今の教育家なる者は、家庭及社會教育の不完全なるが爲め、其半の責任をも負擔する者なれは、親心ある教育家なる者は、自ら子女の繙讀する小説美文の如きも、充分の注意を運びて、放課後の運動時間に於てなりとも、自個の趣味と批評眼とを以て、明了に其等を通して人生を教ゆる處あらば、子女の趣味と理想を、不知不識の間に誘掖啓導するのみならず、實際的女學の大主眼なる、我人生を了解せしむるを得るなり。故に人生われ自身の天下の女子教育家に希望する處は、我は慘絶、悲絶、愉絶、快絶、總ての物を有するか故に、四方八面より觀察して我を誤解せず、我の眞相を了解せしめむと是也。

ミッションスクールの女教師先生の如き、高等女學校長閣下の如きは、わが人生の係る聲に對して、何なる思召を有し給らん。やんごとなき諸先生のとなれば、特に眼孔を白黒なし給ふ必要もなく、例に依て平然たる者にて在すらめ、それでこそ始て女學界の女神、寛仁大度に温靄洋の如き者ならむめれ。然れども係る女神に啓廸せらるゝ、天使の群こそ誠に可憐なるもの在り、やんごとなき方々は身は紫雲九重の天堂に在して、常に人生の俗臭に屑を觸させ給はず、偶々人生に玉顏を向けさせ給ふとあるも、迂遠なる望遠鏡を翳して、天躰の星の穴より覗き給ひ、視力の及はざる處は單に想像に一任して、的迹の觀察を試たもふて、譯らぬ處はごまかしてふ秘

法を以て、全智全能の女神の面目を全ふし給ふが故に、出て人生の實戰に望むとする天使の群こそ、幸か不幸か的違の戰線内に吶喊して、竟に天地鳴動曝發の爆聲とともに、殆むと煙滅するに至らむものなり。人生にては意外の邊に、惡魔の子の親分等が、非常手段の伏勢を伏しめおくを以て、縦令斯仕勢の中に陷るも、神色自若として一道の活路を、電光石火の刀端に認めうる丈の、修養鍛錬を有せざる可らず。故に無邪氣なる姫君達は、單に天堂の女神にのみ學ひたまはず。單に塞上を逍遙する天使たらず。人生を了解せる地上の人たり得る樣、自家を啓發せられむことを望む。天使は單純にして人は複雜なれば、わが人生は斯意味に於て、人情の機微を味ひ、人生外科學の秘奧を味ひ、處世の眞意義を味ふたる、修養鍛錬ある複雜なる人物を尊重す。希くは天使等よ。人生を花と飾る天使等よ。人らしき天使たらむことを、人らしき天使たらむことを。

筆後閑林繼半樹　　水邊花落忽横枝

同人社

（其八）

あゝ我師

（大阪、りう子）

（一）
清きは朝の霜なして、
匂ひ氣高き梅の花、
日かけに笑める櫻花、
いやが上にも美しく、
靜けき秋の中空に、
ゆたかに澄める月のごと、
まどかにわれとあゝ我師、
我を導き玉ひけり。

（二）
行手をふさぐ山川も、
後邊にたてる岩が根も、
少女こゝろのうつゝなく、
世はとこしへの春のごと、
花に歌ひつ香に狂ひ、
胡蝶の夢に醉へる時、
その御教はいと深く、
堪えぬ泉とあふれけり、

（三）
はげしく荒む世のあらし、
舵をたえたる捨小舟、
よるべ渚にけふは西、
明日は東と血の汐や、
辛き千尋の海原に、
漂ふはては思ひいづる、
學のあかりの文のまど、
笑顔こぼるゝそのみ聲。

（四）
はらへどつきぬ身の不運、
かよわき肩に負ひあまる、
重荷にそゝぐ紅涙を、
柔和と愛のみち〳〵し、
御手にはらひていと熱き、
なさけの涙一しづく、
昔ながらのあゝ我師、
我を慰め給ふなり。

暗夜

大塚楠緒女

『イヴの仕業なかへりみよ
アダムの汚れ悟らずや
人こそ怒の器にて
息ある土塊の變化なれ
時ありほろぶ肉と血の
時あり腐るみにくさは
そのあざむきの笠着ひ
僞の衣剝ぎはがば
醒け眠蠶は草の宿
野に曝すらむ髑髏
されば汝れらの汚し住む
地を清めむと善き神は
花をあたへて花あらせ
實を結ばせて實あらせど
惡はわれらの務にて
罪はわれらの榮なり
我王魔王の襟こそは
妬の矢なぞ射らせける
優しき顔に創を植ゑ
うたはせつるは鬼薊
美しき實に毒そゝぎ
嫁はせつるは蛇いちご
薔薇に枯せし剝衣
憎みはおなじ紅薔
それ十惡の王となり
時あるかぎりつきまとひ
隙あるかぎりわだかまる
怒は熱き鐵の
性は執念き硫黃の火
淨美を衒ふ世をすべて
醜きものに爲しなさむ
企逞き叛逆の
さゞろく脈はうちせまり
炎にうめく罪惡の
叫びはめぐる令の下
われ等眷屬小躍す
こよひ月なくおそろしき
天の眼の星もなし
いざや魔王のゆるし受け
その威を借りて遊ばなむ
おもしろき夜の慰みは
人間界に至らばや
來れ我友たはぶれに
彼らが胸をうちたゝき
彼らがほこりあざわらひ
彼らが心たぶらかし
思の儘にふみ荒さなむ。』
何處ともなくうめきたつ
のゝしり聲の近づけば
地獄の底に沸く雲の
暗にも黑く投げられし
網にも似たる巾剝れて
群れて出でくる小鬼ども
魔王のほさりのがれ來し
自由なるひと夜よろこびて
躍るものはた跳ぬるもの
くつがへるもの轉ぶもの
泣くか笑ふかひしめきて
奏づる樂のあやしさよ
昔聽手にうとまれて
怨みて死にし樂人の
腕の筋もて搓りし絃
餌を嚙み獸にたふされし
蛇の皮の紋太鼓
撥はひえたる赤兒の手
なる音暗をもつむざきて
あらゆる魔どもこれ聽かば
吸ひよせられて寄り來らむ
小鬼好みて操りたつる
げにも勝れし鈴こそは

巣の小島を護關れたる
彼の巣の眠なりけれ
雷を延べ鋼め角ふりて
をどり狂へる足拍子
凄き響に合ひ合ひて
やみの階段ふみさぐる
行列ながく進み出でけり

たとへあめつち
うちくづれ
大海こぞり
よせくとも
のろいの炎
きゆべきや
のろいの炎
きえぬまは
悪魔の國は
とこしへよ
われら小鬼も
とこしへよ
れため
のろへ
わらへ
き、き、き、

たとへ時てふ
もの盡きて
衰へんとも
そは斧の
すなはち斫き
なはりにて
巣の跡は
悪にあり
悪魔の王は
とこしへよ
われら小鬼も
とこしへよ
れため
のろへ
わらへ
き、き、き、

悪魔の王は
とこしへよ
われら小鬼は
とこしへよ
れため
のろへ
わらへ

小鬼の興はたけなはに
マーチの曲の近づきし
こころは人の都會にて
悲鳴をあぐるさよ嵐
何事か世のいまはしき
報知洩らしよぶに似て
家毎軒を音づれつ
眷と飢のたゝかひも
しばし休みの息つきて
夜の黒布の落されし
中に散りけり小鬼ども。

ひとつの鬼はつとゆきて
暗き木陰にゆき暮れて
疲れ眠ふれる旅人の
耳を攫みて走り去りけり

ひとつの鬼はつとゆきて
攝れの使に倚ぶらむか
泉の水を涸まむとて
おそろしき暗ふみてゆく
少女の袖をひきて馳けたり

ひとつの鬼はつとゆきて
鸚鵡の羽の悪羽の

情も露に抱き合ふ
二人が胸にひさしづく
呪の響をうち落し
背中あはせに裂れなむ
戀の終は今來むと
あざみ笑ひて隱れ去りけり

ひとつの鬼はつとゆきて
疎まれ果てし詩人(うたびと)の
泪をしぼり作りける
是もてやがて世に出でむ
彼が命とたふとべる
薄文字かきし紙の上に
再び人の讀めぬまで
蟲をこぼしてまぎれ去りけり

ひとつの鬼はつと入りて
夜すがら金を算へては
ひとりほゝゑみうち守る
翁のかしらたゝきけり
おどろく側にもの乞の
形となりてあらはれつ
黄金に重き箱一つ
かつぎ出してのがれ去りけり

ひとつの鬼はつと入りて
夜すがら起きて書(ふみ)よめる
博士のめをぞふさぎける
おどろきて立つ其肩に
矣人になりてすがり添ひ
網の袂にひき緊めて
酔ひてみつむる顔を撫で
ほゝゑみ罪をひれり去りけり

ひとつの鬼はつとゆきて
ぬすみして來し盜人の
負へる重荷に石乘せて
立ち得で惑ふかたはらに
はたと手をうち捨てゝ去りけり

ひとつの鬼はつとゆきて
苦限に迫はれ死なんとて
命呑まなん川のへに
泣きては拾ふわがものゝ
袂の小石うばひては
髮毛をぬきてなぶり去りけり

ひとつの鬼は枕へに
ねふる嬰兒おびやかし
ひとつの鬼は慾深き
翁の瞳を押へけり。

くだかけなきぬ時たちぬ
東のとばりあげられて
暗は慎しみ去らんとす
勝利を得てし小鬼ども
かなた此方の隈出でゝ
蜘蛛の子如(ごと)集ひ來つ
再び列をつくりたて
かちどきあげてうち勇み
マーチをまたも奏でゆく
鳴り響かすか絃の音は
虚空に長く尾を引きて
ゝの鈴の音のものすごく
まろぶかなたや其行迹
遠ざかり行く怪しのれ
幽かになりぬ今幽か
聞えずなりぬ今終に
鬼の足跡はかき消えて
強き賢き人間の
力はじめて力ある
晝こそ其處に來りけれ
くだかけなきぬ三度五度。

〰〰〰〰〰〰〰〰

夜の露、星の光の消えがたし　(某女)

隨感

○心の解するわけ

心さびしく、辛氣くさく、はげみなく、面白きこともなく、只だうつら〳〵と日を送りて甚はだ不快なるとあらば、そは他の爲に善事を思はざる故と覺るべし。青年男女は、其の思ふ事の成らず、思ひしとに意外なる事實ありと發見したる時など、識らず〳〵此の鬱々の境に入る。われ亦た時として此の面白からぬ心地するとあれば、直ちに彼の黄綺嬢の懺悔を憶ひ起す樣にするなり。即わち曰く、憂悶は利己の念より生ず、他の爲に切思するときに鬱憂はなしと。

○愛は僞わる莫れ

元來、己れを知らずと思ひ居る人の言ふとは、いかに冷やかなればとて、左して苦にもならぬものなれど、わが知己と許し、わが眞情の中の人と思ひ居たる人の、密かに心冷たき言行を爲せしと聞きたる時は、英雄も、女傑も、身のほそるやうに、世の狹ばめられたる樣に、人間と言ふものゝ、あぢきなく、つれなき樣に感ずるものなり。愛は僞わるなかれ。僞愛の罪は、僞善の罪よりも尙ほ大いなるべし。

○些言大勵

千万人と雖ども吾征かん、敵すとならば全世界吾に敵せよと迄で思ひ込みたる曉には、罵詈讒謗何んかあらん、銃雨ふり、劍閃めくとも、更めて驚ろくこともなからん程のものが、生平、心落付き、氣平らかにして、左して逆境冷情にも思ひ到らざる折節、ふと人間の淺ましく、世の無情なるとなどに落心失望せし際は、一少女、一兒童、一愚婦の同情すら尙ほ万金に優りたる奬勵を與ふるとあり。左れば、人はつね〳〵心優しくして、斷えず心切を盡すとに慣れ居るべし、何時如何なる人のかゝる場合に接しつゝあるかとも知れざれば也。

○名花凋落

年暮年頭には、死ぬる人多きものにて、取分け名士に於て多

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し。名士は大抵年老ひしものにて、老年の死するは、年の移り變りの比に多き故なる歟。但だ、今回は割合に少なしとて慶こび居たるに、海外にて、敬すべきムーデー、愛すべきラスキン相踵いで失せぬ。十九世紀の終ると同もに、名物の落々として亡びゆく心地す。然れど、露士亞のトルストイ先生、英國のナイチンゲール孃が、幾度となく回復せらるゝは、せめてもの感謝なり。

○吾時に先んぜじ亦後れじ

先覺は敬せずんばある可らず、然し乍ら自己は任ぜざる可らず。任ぜんとすれば、責めざる可らず。責むるは即はち修練長養の甚ひなればなり。識らずして春の既に枝頭に十分なるごとく、吾が天職を盡し、吾が天命に聞くべきの期會、思はざるうちに早く頭上に臨み來れり。我は素より何時迄か天地の幼兒なれども、夫相應に任とすべき機事はあるべし。我の急ぐにあらず、時の急ぐなり。先覺は代謝し、後覺は累進す。其の進路に妨たげせざるほどに、速やかに吾任を盡して早く天恩に報いざる可らずと思惟する人のありや。

時事

◉押川方義君のムーデー氏追悼

基督教會の有志、ムーデー氏追悼會を開かんとし、諸君各分擔あり。押川方義君は「人としてのムーデー」と題し、其品格性質を說かんとして偶ま病み果さず。青年會堂上、押川君が此の好題目の下に長廣舌を揮はざるを遺憾とす。之を聞く、君が、ムーデーの人と爲りに就て感歎する所は、左の如しと云へり、

曾てムーデーの說教集を讀み、太はだ深く考究せり。后ち米國に遊び、書を受けしと一回、相ひ話せしと僅かに一時間半、其の說法を聞しと只數回に過ざりしが、性格流露して斷然たり。其の殊特の氣質は、蓋し左の四長所に過ず。

一　彼は父なる神を太はだ近く信じ居たり。

二　彼は基督の活力を堅く信じ居たり。

三　福澤が凡俗界物質界の常識に富める如く、彼は精神界、信賴界の常識に富みたり。

四　彼は非凡なる統率力（コムマンデング、パワー）を有したり。

彼が事業、經營、無邪氣、熱心等は只だ其の天品より發する附屬物に過ぎず。

彼が風采は粗野朴質なれども、氣品あるものより見れば如何にも高貴に見受られたり。彼が多數人の集會所等に臨み居るを見るに、無意識的に、衆と人とを呑み、我知らず之を壓倒したり。頭の上より足の下までエナルギー充ち滿ちたり。

蓋し、ムーデーを評するに於て、此の評の如く大體を得たるものは尠なかるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○刑法改正案

衆議院の議に上り、現に委員に附托せられたる、姦刑改正の案は、剛愎、放埒、喋々極まりなき普通男子の頭上に大痛棒を下し、飲泣嗚咽して天地に訴ふる所なかりし可憐なる婦女子が爲に大氣焔を吐けり。本議會に於ける一大壯觀なり。

○宗教法案

宗教法案に反抗すと稱して雲霞の如く都門に集まり來る人を見るに、既に一種の狂熱に入りたる如し。何事によらず、今時、これ程に熱するもの稀なりしかば、沈靜を破る一大動機として、世は更に角ににぎはひ來れり。但し反抗するものも勢に驅せられ、先なるものの後なるものに押されて、止まらんとして止まりがたし。贊助するものも、切りに氣にして先づ調停融和に日を消しつつ、機會早く逸せんとす。元來、何れにしても左して大利害なきものなれど、言ひ出しては則ち大問題となる問題ゆへ、一と度此れ程の騷を生ずるトは致方なし。況んや瞬時速決するをなせざるをや。

○村井商會の外資輸入

外資輸入の議しのみ頻りに聞え、其の可否の議論のみ甚だ八釜しく、トラストの利害所々に討論せられつゝありし間に、村井商會が計畫は突然發表せられ、迅速に其成功を見たり。凡そ事物の實際に成ると云ふものは大抵此の類なり、豈に討論にあらんや。

○星亨君

天下の惡名を負ふて飄然として愁せず、名を避けて實權を握る。星君や、男兒の譽ありとすべし。

○「惡寛の子」改稱す

善寛の子

近頃友あり我れを嘲て笑つて曰く『君は自ら稱するに「惡寛の子」を以てす。然れども、之れ當る當らず。稍や「寛」たるに相違なし、されど未だ其「惡」なるものあるを見ず、何ぞ替して「善寛の子」といふを得んや。乞ふ我れ卿がために献ずるに「善寛の子」の稱を以てせん』と。我れ之を聞いて思はず手をうちて曰く『よい設計や、歡喜、その言の如くなさん』と。茲に「惡寛の子」即ち其稱を變へて「善寛の子」となる。時に又傍ら來なる友あり、同く嘲て笑つて曰く『乞ふ更に變へて「愚寛の子」たるの男なき乎』と。答へて曰く『未だし』と。遂に苦笑のうちに其勸言を郤る。

○東京座一月狂言（女貢君萬歳）

有美

先づ東京座の一月狂言を觀て感ずるは、その大道具の粗末にして齊はざることなり。二番目狂言に「おしづ」を扮せし團吉の、如何にも其身のこなし格らずして、女學生の出來損ひの如くなりしことなり。本郷八百屋の下女「お杉」が、「オーしんど」などいふ上方言葉使ひて、延二郎が大坂好のぬけかれたるを示せることなり。九女八が「京人形」の踊りぶりの、誠に御苦勞千萬といふ外あることなり。されど、我れの特にこの狂言を觀んとて行きしは、女貢の「相模」と「八百屋お七」とを賞せんためなりし。而して、幸に我が勞は酬ひられ、我が女貢鼓吹熱は、これによりて一層の度を高めたりといはんか。かの「相模」が熊谷の陣屋に詠れ來りて、時しも夫の留守なるまゝに、しばし待ち合せ居るうち、九女八の「藤の方」に偶然なる宿頼まれ、うちに招じて互に古き昔の物語りと、敦盛戰死のことより、激しき押問合となるところ、沈痛といはんかグランドといはんか、兩者の呼吸些かのたがひなく、生命あり感激あり、蓋し容易すからざるの偉觀なり。殊にいつもながら、女貢のしぐさに寸隙なく、束の間も空虚の心持へなきところ、たゞ〳〵感服の外なし。「お七」の人形振りとなりてより、かの櫓の梯子を上る時の狂亂さ、又仲々に偉き見ものなれども、太鼓を打つや否や、舞臺一面の大雪となりて折角の情趣を破られ、觀客の感情を充分に刺戟することを能はざるは遺憾なり。もし其人形振りに難をいへば、たゞ顏と手とをのみ人形にするに苦

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

心して、足と肩の關節との動作に疎かとなり、甚だ人くさきことなり。足と肩との如きは、たゞに演劇のみならず、繪畫彫刻などにありても、數々忘れ易き點なれば、敢て責むるにあられど、名人たるものは、その邊までの注意なくてはかなふまじ。近頃念に長足の進歩をなせるは、染五郎なり。もしこの分にて止むことなく、凡俗の人氣など氣にかけずば、將來また望み多しといふべし。

○透谷集の再版　同

人の至誠と詩美の靈とは、長久に亡ぶることなし。我が眞詩人透谷子の身、忍酷なる人世の斧に裂れて、あわれ花間の露と消えしと雖ども、歳月去ること遠くして、子を思ふもの愈多く、天下「透谷集」を求むるの聲まことに高し。而して今や其一册をだも市上に見るべからず。茲に子が生前最も親しく交りをかはせし島崎藤村子、即ちさきの「透谷集」に「蓬萊曲」を合はせて一卷となし、新に再版に附せんとするの意あり、書肆春陽堂既に之を諾し、この秋滿目これ紅なる頃にも至らば、發賣の運びをなすを得べし。校定校正の如き、藤村子自ら其勞を取るべしといへば、その完璧のものたる素より疑なかるべく、庶幾くは、その熱血活火に今の沈靜せる詩美界に、一大洗禮を施すを得んか。

○屑ぶくろ　同

かの新例娘にて名高き盲長屋の雜誌屋は、去年の大晦日の夜、仲々の客ごみにて夜は二時頃までも、購客絶えず、そろ／＼片付けて店を閉ぢんものと思へば、早や元日は四時前より又客につめかけられ、一夜遂にまどろむ暇さへなく、元日は閉店と心構へせしも全くの水泡にて、素より閉ぢられべくもあらず、賣るとはなしに賣り出し、開くとはなしに遂に店開きてけりと、かの女の語り居るを、或人耳にはさみけり◎近頃流行せんとする傾あるは、金茶の羽織紐なりと、これも或人申しにき◎にくたらしきは常陸山といふ角力なり。みん事土俵の滿中に、かの荒岩をして投げ飛ばさしてやりたしと、これも又或人の話なり◎シヨウルと吾妻コートとの比較論起れば、兎に角吾妻コートといふものゝ形は長く傳りて消えざるべしと、これも又々或人の語りける◎腹の黒いことは、寧ろ高山などが黒いので、晩翠は至りて正直な氣の小さい男なりと又或人の申されき◎あれほどの詩人なる「獨立雜誌」の記者に、「九條節子論」なきは如何にと、これは莽莫の子の言なり。

新刊書

○紅葉山人、櫻癡居士　落花漁人

紅葉山人の「金色夜叉」後篇に櫻癡居士の「みだれ燒」の二册、新年の讀物として吾が案上に待てり。一夜、閑に乘じて、一卷を通讀し、双奕兩々の反映異彩を比較して、今更ら乍ら二君の特色相違の趣向を味はひたり。

「金色夜叉」は、紅葉山人の著としては、稍や深刻の方なり。「みだれ燒」は、櫻癡居士の作としては、少こしく複雜の方なり。共もに其平生より一歩を進めて、新たに伎倆の區域を擴張し、才子才を見めすの符節として、暗に得意の狀なきにあらずと雖ども、天色豈に衆攷の能く隱す所ならんや。二君の特色は明白に顯現せり。

紅葉山人の小說は、其頓智妙才に於て人を悅こばす外に、其文や殆んど至れり、前なるは、其の無雜作に發する所、后なるは其の尤とも苦心慘憺たる所なり。櫻癡居士の小說は、其對話掛引に於て人意を快ちよくする外に、其結構や宛から台帳の如し、先なるは其の尤とも得意を示す所、後なるは其の識らず／＼近年尤とも手慣れし所なり。

嗚呼、二君の才や固より文壇の長なり。左れど、小說として讀者の情熱同感を促かすに至ては、尚ほ遺憾なきを得ず。何人も其筆の巧妙、其想の老練なるに服すると共もに、亦何人も其の赤誠に泣くものはあらじ。二君の小說を見て、或は笑ひ、或は讃め、或は感服するものはありとも、同情同感に堪ゆるものはあらじ。此點に於ては、豈かに故一葉女史が短篇小說にすら及ばず。一介の小女能く二名家を凌ぐ、豈に他ならんや。天稟の奪ふべからざると、血涙の濺くると能はざるとに由るのみ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

⦿支那の女性　矢野文雄氏、日本倶樂部に於ける演說中に云く、支那に在て婦女子に權力なしさは間皮たる所なれども、實際は女權頗る盛にして、家事向の爭ある時は妻女常に之に當り、男子は婦女子に對しては爭ふと能はず、父兄人は其妻を畏るると甚しく、内内と云ふは古も今も敢て畏るとなしさ。

⦿佐賀の女風　佐賀市の四肥日報嘆じて云く、新年の內と云ふ觀念あるに依るかは知られど、昨今見る所ろ女子の衣服頗る華美に傾けるもの丶如し。內には學校通學の女子にまで藝妓附婦然たる羽織を纏ふもの丶間々あるやに見受く、殊に女子の羽織の丈長きもの流行するは掩ふべからざる事實にて、間には着物の裾さ殆んさ同し長さに達するものもあり。防寒の爲めには便利なりさ云はゞ云へ、一見したる所ろ貞淑の風を缺きて、輕佻の俗を顯はすに似たりさ、或人評せしは非か。

⦿女子勞働鬼石社　上州多野郡鬼石町に女子勞働鬼石社さ號するもの起る、ミ波川女子勞働組さ養蠶改良鬼石社さの合併より成る、社員合計三千人あり。

⦿工女數十名燒死　愛知縣東春日井郡光明寺村の織物業小島新藏方より去三十三日出火し、三棟燒失、工女數十名燒死したりさ。何等の悲慘ぞ。

⦿女子一校を擔任す　愛媛縣下小中學校女教員なきにあらざるも、其獨立して一學校を擔任するものは恐くは南宇和郡滿倉尋常小學校訓導羽田タケ子の外之れあらざるべし。タケ子は曾て簡易科教員試驗に及第し、其資格を得しより孜々さして教育に從事すると、殆に殆んさ十年。今や年齡三十に及ぶも尙寡居して嫁せす、家庭に在て父母に孝養を盡すの外教育に餘念なし。タケ子人に語て曰く、子女を有するに至れは意の如く教育に從事する能はす、是れ余の寡居する所以なりさ。以て其決心の如何を知るべし。タケ子の擔任する學校は單級にして、學人員六十餘名、其最も賞しきものは全校清潔法の行屆けるさ、管理の嚴正なるさ、生徒の言語明晰にして而も其擧動の活潑なる等なりさ云ふ（海南新聞、一月十九日）

⦿豐前の佛教女學　豐前佛教徒の協同によりて高等女學校を中津に開かんさす女子教育の施設難きに非す唯夫れ其人を得るを難しさす頻々たる失敗の歷史は大に考査すべきの價値あり中津高等女學校果して能く健全の發達を遂ぐべきや吾人が多少の望を屬する所以は極高秀山氏の校長たる在り氏は熱誠なる術慣家なり豈し豐前教界の勢力を利用し得る者は氏を除て他に求むべからず。（大學林介報、第一號）

⦿女訟　備前國兒島郡東興除村農佐藤瀧一郎妻さく（富士新聞、一月十八日）〇武藏豐多摩郡信濃小縣郡和田村長井喜多雄妻さが（信濃每日新聞、一月廿一日）〇武藏豐多摩郡戶塚村大字諏訪二百十七番地帶劫東大谷山金滅長女りさ十五年（讀賣新聞、一月十六日）〇備前岡山市門田屋敷八番邸醬油業矢部與吉妻梅（富士新聞、一月廿四日）
〇渡島國松前郡福山巷社堂町高瀨德太郎長女部、十四年（富士新聞、一月廿一日）

諸國料理	讀賣新聞（連載）
馬關名物插花	門司新報（一月五日、十四日）
子供の權威（父母も亦監督さる）	報知新聞（一月十四日）
齊の白梅（德川篤守氏令孃の事）	中央新聞（一月十五日）
才媛美談（水野清子、土岐幾子、）	千代田日報（連載）
孝女辨子	千代田日報（連載）
兎の吸物（池田晃淵）	讀賣新聞（一月十七—廿二日）
本夫姦通罪に就て	京華日報（一月十九日）
野村子爵の令孃	同（一月十六日）
米國多妻議員の除名	時事新報（一月十五日）
姦淫議會の試金石	每日新聞（一月十九日）
非妓權設置論（齋藤紫筑）	茨城日報（一月廿一日）
媚風的傾向	人民（一月廿五日）
米國々會の一夫多妻問題を見て感あり	每日新聞（一月廿六日）
露國女子對學校	教育時論（五三一號）
マダム、ローラン	世界之日本（一月十三日）
文士無妻論（島村抱月）	大帝國
今の所云ふ教育ある女子	教育評論（五三二號）
河瀨樞密顧問官の「女子教育と基督教」	福音新報（一月廿四日）
明治五年の學制	教育時論（五三〇號）
婦女子名小言（濱田實城）	田舍（十八號）
生后一ヶ年間、女兒の發育日誌（長野、關てい）	兒童研究（一月三日）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

明治女學校受捐金廣告

金二百圓（基本金）	足利町	荻野文八君
金三百圓（同）	同	原田定助君
金百圓（同）	同	荻野万太郎君
金百圓（同）	同	原田政七君
金五拾圓（同）	同	岡崎治三郎君
金二拾圓（同）	同	川井運吉君
金三拾圓（同）	同	原田金三郎君
金二拾圓（同）	同	井上静雄君
金三拾圓（同）	同	市川安左衛門君
金十圓（同）	同	木村半兵衛君
金十圓（同）	同	岩根利信君
金十圓（同）	同	勝田福太郎君
金十圓（同）	埼玉縣	伊藤力次郎君
金十圓（同）	足利町	藤沼覺藏君
金十圓（同）	同	荒井雄太郎君
金十圓（同）	同	荒井昌三君
金十圓（同）	同	山口仁十郎君
金十圓（同）	同	木島善作君
金五圓（同）	同	田部井猪子君
金五圓（同）	同	天田覺太郎君
金五圓（同）	同	門田久俊君
金五圓（同）	同	白石理三郎君
金五圓（同）	同	山口米太郎君
金五圓（同）	同	柳田武一郎君
金五圓（同）	群馬縣	伏島筑三雄君
金五圓（基本金）	足利町	初谷豐作君
金五圓（同）	同	石川高吉君
金五圓（同）	同	須永勇吉君
金五圓（同）	同	西村櫻平君
金五圓（同）	同	新居倉造君
金二圓（同）	同	田村彦七君
金三圓（同）	同	中島新吉君
金三圓（同）	同	阿部庄兵衛君
金三圓（同）	同	青木甚三郎君
金二圓（同）	同	植田與次郎君
金三圓（同）	同	酒卷仁兵衛君
金三圓（同）	同	木山幸三郎君
金三圓（同）	同	後藤有恒君
金二圓（同）	同	武居一郎君
金三圓（同）	同	大竹秀三郎君
金三圓（同）	同	竹内兵三郎君
金三圓（同）	同	丸山くに子君
金三圓（同）	同	關屋諒藏君
金二圓（同）	同	岩井山有一君
金二圓（同）	同	今尾宗子君
金一圓（同）	同	松葉清三郎君
金壹百圓（供養捨）	米國	伯爵陸奥廣吉君
金三圓（供養捨）	東京	小林富二郎君
金五圓（供養捨）	札幌	段清吉君

故若松賤子女史譯述

再版 **小公子**

全一冊洋裝美本　紙數三百五十頁　正價金三十五錢　郵稅八錢

近代欧米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝ事數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き少年は、頑固執拗の老侯爵を感化す、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち、讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ。何ぞ其の可憐純潔なるや。少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史嘗て其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、嘗て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し、遂に巻を釋く能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝ事切なり。即ち茲に其遺稿を收め、女史が一周忌日に合せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘烟中島女史は字を題し、郷友松井昇氏は密畫を附せり。同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

明治三十三年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日發行

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY